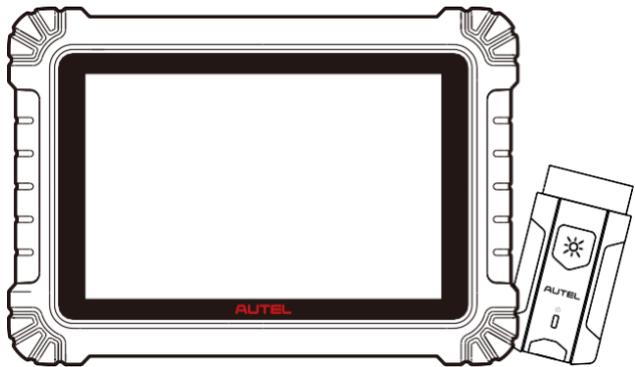


MaxiSys MS906 MAX



商標

Autel®、MaxiSys®、MaxiDAS®、MaxiScan®、MaxiTPMS®、MaxiRecorder®、MaxiCheck®は、Autel Intelligent Technology Corp., Ltd. の商標であり、中国、米国、およびその他の国で登録されています。その他のすべてのマークは、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

著作権情報

Autelの書面による事前の許可がない限り、このマニュアルのいかなる部分も、電子的、機械的、コピー、録音などの形式や手段を問わず、複製したり、検索システムに保存したり、送信したりすることはできません。

免責事項の保証制限の負債

このマニュアルに記載されているすべての情報、仕様、および図は、印刷時点で入手可能な最新情報に基づいています。

Autelは、予告なしにいつでも変更する権利を留保します。このマニュアルの情報は正確性について慎重にチェックされていますが、製品の仕様、機能、イラストなど、内容の完全性および正確性については一切保証されません。

Autelは、本製品の使用に起因する直接的、特別、偶発的、間接的な損害、または経済的結果的損害 (利益の損失を含む) については一切責任を負いません。

重要

この装置を操作または保守する前に、このマニュアルをよく読み、安全上の警告と注意事項に特に注意してください。

サービスとサポートについて



pro.autel.com

www.autel.com



1-855-288-3587 (北米)

+86 (0755) 8614-7779 (中国)



support@autel.com

その他のすべての市場での技術サポートについては、このマニュアルの「テクニカルサポ

ート」を参照してください。

安全情報

ご自身と他の人の安全のため、また、デバイスやデバイスが使用される車両の損傷を防ぐために、このマニュアル全体に記載されている安全に関する指示を、デバイスを操作または接触するすべての人が読んで理解することが重要です。

車両の整備には、数多くの手順、技術、ツール、部品、および作業者のスキルが必要です。この装置でテストできる製品のテスト用途やバリエーションが膨大であるため、あらゆる状況を予測したり、あらゆる状況に対応するアドバイスや安全メッセージを提供したりすることは不可能です。テスト対象のシステムに精通することは自動車整備士の責任です。適切なサービス方法とテスト手順を使用することが重要です。自分の安全、作業エリアにいる他の人の安全、使用しているデバイス、またはテスト対象の車両を危険にさらさない、適切で許容できる方法でテストを実行することが不可欠です。

デバイスを使用する前に、テスト対象の車両または機器の製造元が提供する安全メッセージと該当するテスト手順を必ず参照し、それに従ってください。デバイスは、このマニュアルに記載されているとおりにのみ使用してください。このマニュアルのすべての安全メッセージと指示を必ず読み、理解し、それに従ってください。

安全に関するメッセージ

安全メッセージは、人身傷害や機器の損傷を防ぐために提供されています。すべての安全メッセージは、危険レベルを示すシグナルワードで始まります。

危険

回避しなければ、オペレータまたは周囲の人が死亡または重傷を負う差し迫った危険な状況を示します。

警告

回避しないと、オペレータまたは周囲の人が死亡または重傷を負う可能性がある潜在的に危険な状況を示します。

安全に関する注意事項

ここに記載されている安全に関するメッセージは、Autel が認識している状況をカバーしています。Autelは、起こり得るすべての危険について知り、評価し、アドバイスすることはできません。いかなる状況やサービス手順が発生しても、個人の安全が危険

にさらされないことを確認する必要があります。

危険

エンジンが作動しているときは、サービスエリアの換気をよくするか、エンジンの排気システムに建物の排気除去システムを取り付けてください。エンジンは一酸化炭素を発生します。一酸化炭素は無臭の有毒ガスであり、反応時間が遅くなり、重篤な人身傷害や人命の損失につながる可能性があります。

 ヘッドフォンを使用するときは、音量を上げすぎないでください。耳を過度に刺激する大音量で長時間聞くと、難聴を引き起こす可能性があります。

安全上の警告

- 自動車のテストは常に安全な環境で行ってください。
- ANSI 規格を満たす安全な目の保護具を着用してください。
- 衣服、髪、手、工具、試験装置などをすべての可動部品や高温のエンジン部品から遠ざけてください。
- 排気ガスは有毒であるため、車両は換気の良い作業場で操作してください。
- トランスミッションをパーキング（オートマチックトランスミッションの場合）またはニュートラル（マニュアルトランスミッションの場合）にして、パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。
- 駆動輪の前にブロックを置き、テスト中は絶対に車両から目を離さないでください。
- 点火コイル、ディストリビュータキャップ、点火ワイヤ、点火プラグの周囲を作業するときは特に注意してください。これらのコンポーネントは、エンジンの動作中に危険な電圧を生成します。
- ガソリン火災、化学火災、電気火災に適した消火器を近くに置いてください。
- イグニッションがオンになっているとき、またはエンジンが作動しているときは、テスト機器を接続したり取り外したりしないでください。
- 試験装置は乾燥した清潔な状態に保ち、油、水、グリースが付かないようにしてください。必要に応じて、清潔な布に中性洗剤を付けて装置の外側を拭きます。
- 車両の運転と試験装置の操作を同時に行わないでください。注意力散漫になると事故が発生する可能性があります。
- 整備される車両のサービスマニュアルを参照し、すべての診断手順と注意事項に従ってください。そうしないと人身傷害や試験装置の損傷につながる可能性があります。
- テスト機器の損傷や誤ったデータの生成を避けるために、車両のバッテリーが完全に充電されており、車両の DLC への接続が清潔で安全であることを確認してください。
- 試験装置を車両のディストリビュータの上に置かないでください。強い電磁干渉により機器が損傷する可能性があります。

コンテンツ

1	このマニュアルの使い方.....	1
1.1	規約.....	1
1.1.1	太文字テキスト.....	1
1.1.2	注記そして重要メッセージ.....	1
1.1.3	ハイパーリンク.....	1
1.1.4	イラスト.....	1
1.1.5	手順.....	2
2	概要.....	3
2.1	MS906MAXタブレット.....	3
2.1.1	機能説明.....	3
2.1.2	電源.....	5
2.1.3	技術仕様.....	6
2.2	VCI V200 — コミュニケーションインターフェース.....	7
2.2.1	機能説明.....	7
2.2.2	技術仕様.....	8
2.3	その他アクセサリ.....	9
3	はじめに.....	11
3.1	電源を入れる.....	11
3.1.1	アプリケーションボタン.....	12
3.1.2	ロケータとナビゲーションボタン.....	14
3.1.3	システムステータスアイコン.....	15

3.2	電源を切る	1 5
3.2.1	再起動システム	1 6
4	診断.....	1 7
4.1	車両通信の確立	1 7
4.2	はじめに	1 9
4.2.1	車両メニューレイアウト	2 0
4.3	車両識別	2 2
4.4	ナビゲーション	2 6
4.4.1	診断画面レイアウト	2 6
4.4.2	画面メッセージ	2 9
4.5	診断メニュー	2 9
4.6	診断機能	3 0
4.6.1	ECU情報.....	3 4
4.6.2	トラブルコード	3 4
4.6.3	ライブデータ	3 6
4.6.4	アクティブテスト	4 3
4.6.5	常用特別機能	4 3
4.7	コーディング	4 4
4.8	EOBDIIオペレーション	4 4
4.8.1	一般的な手順.....	4 5
4.8.2	機能説明	4 6
4.9	診断レポート.....	4 8
4.9.1	プレスキャン&ポストスキャン機能	4 8

4.9.2	診断レポートの保存、表示、共有	49
4.10	診断の終了	52
5	サービス	54
5.1	オイルリセットサービス	54
5.2	電動パーキングブレーキ(EPB)サービス	55
5.2.1	EPBの安全性	55
5.3	タイヤ空気圧監視システム (TPMS) サービス	55
5.4	バッテリー管理システム (BMS) サービス	56
5.5	ディーゼル 粒子フィルター (DPF) サービス	56
5.6	イモビライザー (IMMO) サービス	57
5.7	ステアリングアングルセンサー (SAS) サービス	58
6	ADAS	59
7	データマネージャー	60
7.1	車両履歴	61
7.1.1	履歴テスト記録	62
7.2	ワークショップ情報	63
7.3	顧客管理	64
7.4	イメージ	65
7.5	クラウドレポート	67
7.6	PDF	67
7.7	データレビュー	67
7.8	データロギング	68
7.9	Apps	68

8	セッティング.....	69
8.1	単位.....	69
8.2	言語.....	69
8.3	印刷設定.....	70
8.3.1	印刷オペレーション.....	70
8.4	レポート設定.....	71
8.5	プッシュ通知.....	72
8.6	オートアップデート.....	72
8.7	ADAS設定.....	73
8.8	カーオーダー.....	73
8.9	オートVID設定.....	73
8.10	システム設定.....	73
8.11	備考.....	74
9	VCIマネージャー.....	75
9.1	VCIBluetoothペアリング.....	76
9.2	BASBluetoothペアリング.....	76
9.3	VCIアップデート.....	77
9.4	BASアップデート.....	77
10	サポート.....	78
10.1	サポート画面レイアウト.....	78
10.2	My Account.....	78
10.2.1	Personal Info.....	79
10.2.2	アップデート情報.....	79

10.2.3	サービス情報.....	79
10.3	Training.....	79
10.4	データロギング.....	79
10.5	FAQ.....	80
11	アップデート.....	81
12	バッテリーテスト.....	82
12.1	MaxiBAS BT506 バッテリー テスター.....	82
12.1.1	機能説明.....	83
12.1.2	電源.....	84
12.1.3	技術仕様.....	84
12.2	テスト準備.....	85
12.2.1	バッテリーの検査.....	85
12.2.2	バッテリーテスターを接続する.....	85
12.3	車載テスト.....	86
12.3.1	バッテリーテスト.....	88
12.3.2	スターターテスト.....	89
12.3.3	オルタネーターテスト.....	90
12.4	車外テスト.....	91
12.4.1	テスト手順.....	92
12.4.2	テスト結果.....	93
13	ハンドヘルド傾斜計.....	94
14	リモートデスク.....	96
14.1	オペレーション.....	96
15	クイックリンク.....	98

16	User Feedback.....	99
17	MaxiViewer.....	100
18	デジタル検査.....	102
19	スコープ.....	103
20	Autelユーザーセンター	104
21	メンテナンスおよびサービス.....	106
21.1	メンテナンス説明書.....	106
21.2	トラブルシューティングチェックリスト.....	107
21.3	バッテリーの使用について	107
21.4	サービス手順	108
21.4.1	テクニカルサポート	108
21.4.2	修理サービス	110
21.4.3	その他のサービス	111
22	コンプライアンス情報.....	112
23	保証.....	114

1 このマニュアルの使い方

このマニュアルには、デバイスの使用手順が記載されています。

このマニュアルに記載されているイラストには、システムに含まれていないモジュールやオプションの機器が含まれている場合があります。

1.1 規約

以下の規則が使用されます:

1.1.1 太文字テキスト

太字のテキストは、ボタンやメニューオプションなどの選択可能な項目を強調表示するために使用されます。

例: 「**OK**」をタップします。

1.1.2 注記事項と重要なメッセージ

1.1.1.1 NOTE

『**NOTE**』は、追加の説明、ヒント、コメントなどの役立つ情報が提供されます。

1.1.1.2 重要

『**重要**』は、回避しないとタブレットまたは車両に損傷が発生する可能性がある状況を示します。

1.1.3 ハイパーリンク

電子文書ではハイパーリンクが利用できます。青色の斜体テキストは選択可能なハイパーリンクを示し、青色の下線付きテキストは Web サイト リンクまたは電子メール アドレス リンクを示します。

1.1.4 イラスト

このマニュアルで使用されているイラストは一例です。実際のテスト画面は、テスト

対象の車両ごとに異なる場合があります。メニューのタイトルと画面上の指示を注意深く観察して、正しい選択を行ってください。

1.1.5 手順

矢印 アイコンは、手順を示します。

例：

- タブレットの電源を切るには
 1. **電源/ロックボタン** を長押しします。
 2. **[電源を切る]**をタップします。
 3. **「OK」** をタップします

2 概要

MaxiSysシステムには、2つの主要コンポーネントがあります。:

- MS906MAXタブレット — システムの中央プロセッサおよびモニター
- VCI V200 — 車両データにアクセスするためのコミュニケーションインターフェース

このマニュアルでは、これらのデバイスの構造と操作、およびそれらがどのように連携して診断ソリューションを提供するかについて説明します。

2.1 MS906MAXタブレット

2.1.1 機能説明

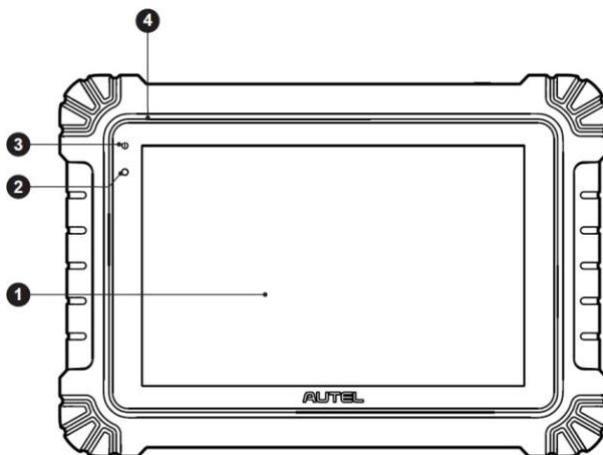


図 2-1 MS906MAXタブレット フロント ビュー

1. 10.1インチ TFT液晶 静電容量式 タッチスクリーン
2. アンビエント ライト センサー — 周囲の明るさを検出します
3. 電源LED — [表 2-1 タブレット電源LEDの説明](#) 参照
4. 内蔵マイク

表 2-1 タブレット電源LEDの説明

LED	色	説明
電源LED	緑色	<ul style="list-style-type: none"> ● タブレットが充電中でバッテリー残量が90%以上の場合は緑色に点灯 ● タブレットの電源がオンで、バッテリー残量が15%を超えると緑色に点灯
	黄色	タブレットが充電中で、バッテリー残量が90%未満の場合は黄色に点灯
	赤色	タブレットの電源がオンで、バッテリー残量が15%未満の場合は赤色に点灯

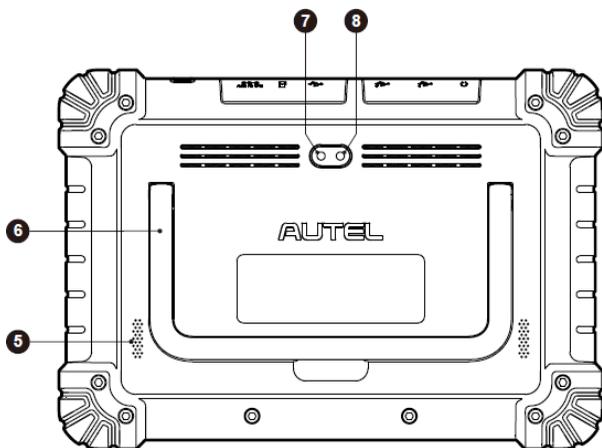


図 2-2 MS906MAXタブレットリアビュー

5. スピーカー
6. 折りたたみスタンド
7. リアカメラ
8. カメラのフラッシュ

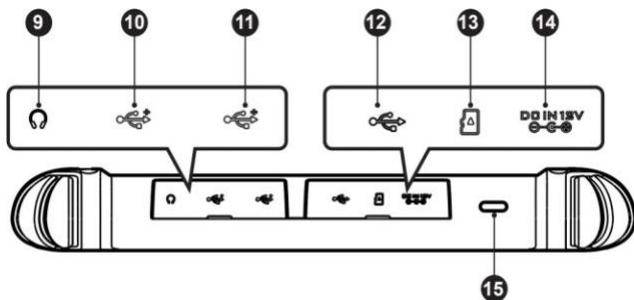


図 2-3 MS906MAXタブレットトップビュー

9. ヘッドフォンジャック
10. USB ポート
11. USB ポート
12. ミニ USB ポート
13. mini SD カードスロット
14. 電源入力 ポート
15. 電源/ロック ボタン - 長押しするとタブレットの電源のオン/オフになり、短押しすると画面がロックされます。

2.1.2 電源

タブレットは、次のいずれかの電力にて駆動します。

- 内蔵バッテリーパック
- AC/DC 電源アダプター
- 車両電源

❗ 重要

温度が 0° C 未満または 45° C を超えるときはバッテリーを充電しないでください。

2.1.2.1 内蔵バッテリーパック

タブレットは内蔵の充電式バッテリーで電力を供給でき、完全に充電されている場合は、約 8 時間の連続動作に十分な電力を供給できます。

2.1.2.2 AC/DC 電源アダプター

タブレットには、AC/DC 電源アダプターを使用し電力を供給できます。AC/DC 電源は内蔵バッテリーパックも充電します。

2.1.2.3 車両電源

タブレットは、直接ケーブル接続を介して、車両のシガーライターまたはその他の適切な電源ポートから電力を供給できます。車両電源ケーブルは、ディスプレイユニットの上面にある DC 電源ポートに接続します。

2.1.3 技術仕様

表 2-2 タブレット仕様

アイテム	説明
OS	Andoroid 10
プロセッサ	オクタコア プロセッサ
メモリ	4 GB RAM & 128 GB オンボードメモリ
ディスプレイ	10.1インチ 液晶 静電容量式 タッチスクリーン 1920 x 1200解像度
接続性	<ul style="list-style-type: none">● Wi-Fi (802.11 (a/b/g/n/ac))● BT 5.0 (BR/EDR + BLE)● GPS● USB 2.0 (USB タイプA × 2、ミニ USB)● SDカード (サポート256 GB)
カメラ (リア)	13 MP
センサー	<ul style="list-style-type: none">● 重力 加速度計● アンビエント ライト センサー (ALS)
オーディオ 入力 / 出力	<ul style="list-style-type: none">● マイクロフォン● デュアルスピーカー● 3バンド / 4バンド 3.5 mm ヘッドセット ジャック
電力 & バッテリー	<ul style="list-style-type: none">● 11600 mAh 3.85 V リチウムポリマーバッテリー● DC 12 V 電源による充電
入力電圧	12 V/3 A アダプター

動作温度	0 ° C ~ 50 ° C
保管温度	-10 ° C ~ 60 ° C
サイズ (幅 x奥行 x高さ)	311.1mm x 216.0mm x 39.9mm
重さ	1.71 kg
プロトコル	PLC J2497、ISO-15765、SAE-J1939、ISO-14229 UDS、SAE-J2411 シングルワイヤキャン (GMLAN)、ISO-11898-2、ISO-11898-3、SAE-J2819 (TP20)、TP16、ISO-9141、ISO-14230、SAE-J2610 (クライスラー SCI)、UART エコーバイト、SAE-J2809 (ホンダ ダイアグ H)、SAE-J2740 (GM ALDL)、SAE-J1567 (CCD バス)、フォード UBP、日産 DDL UART (クロック付き)、BMW DS2、BMW DS1、SAE J2819 (VAG KW81)、KW82、SAE J1708、SAE-J1850 PWM (フォード SCP)、SAE-J1850 VPW (GM クラス 2)、ISO13400、CAN FD

2.2 VCI V200 — コミュニケーションインターフェース

MaxiVCI V200は、車両データ伝送のために車両の DLC とタブレットを接続するために使用される小型の車両通信インターフェース (VCI)。

2.2.1 機能説明

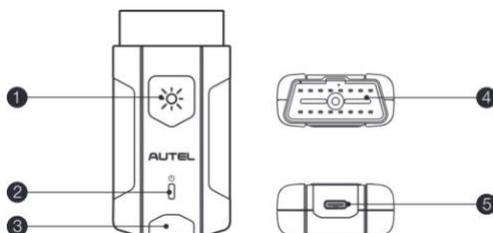


図 2-4 VCI V200 ビュー

1. LED照明点灯ボタン
2. 電源LED — 表2-3 VCI LEDの説明 参照
3. 車両接続時のLED — 表2-3 VCI LEDの説明 参照
4. 車両接続 コネクタ (16ピン)
5. USB ポート

表 2-3 VCI LEDの説明

LED	色	説明
電源LED	黄色	VCI の電源がオンになっていて、セルフチェックを実行中
	緑色	VCI を使用する準備完了
	赤色点滅	ファームウェアを更新中
車両接続時のLED	緑色	<ul style="list-style-type: none"> ● 点灯：USBケーブル接続中 ● 点滅：USB ケーブル経由で通信中
	青色	<ul style="list-style-type: none"> ● 点灯：Bluetooth経由で接続中 ● 点滅：Bluetooth経由で通信中

 NOTE

VCIの電源が入るたびに、電源LEDは、黄色に点灯し準備ができると緑色に点灯します。

2.2.2 技術仕様

表 2-4 技術仕様

アイテム	説明
------	----

コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ● BLE + EDR ● タイプC USB
無線周波数	2.4GHz帯
入力電圧範囲	8Vから 30 VDC
供給電流	150 mA @ 12 VDC
動作温度	0° C ~ 50° C
保管温度	-10° C ~ 60° C
アイテム	説明
サイズ (幅 x奥行 x高さ)	89.89 mm x 46.78 mm x 21 mm
重さ	70.7 g
内蔵バッテリー	3.7 V リチウムバッテリー
ライト	白色LED

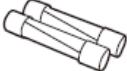
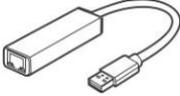
NOTE

3.7 Vリチウムバッテリーは、LED照明点灯のみに使用されます。

2.3 その他アクセサリ

表 2-5 その他アクセサリ

	<p>AC/DC 外部電源アダプター</p> <p>タブレットの外部 DC電源ポートに接続して電力を供給します。</p>
	<p>USB タイプC ケーブル</p> <p>タブレットとVCIを接続する時に使用します。</p>

	<p>補助電源アダプター</p> <p>車両の補助電源コンセントアダプターレセプタクルに接続することでタブレットまたは VCI デバイスに電力を供給します。一部の非 OBDII 車両では DLC 接続経路で電力を供給できません。</p>
	<p>予備ヒューズ x 2</p> <p>シガーライターアダプター用。</p>
	<p>USB イーサネットアダプタ</p> <p>ネットワーク接続時に使用します。</p>

3 はじめに

タブレットに十分なバッテリー残量があるか、DC 電源に接続されていることを確認してください。

3.1 電源を入れる

タブレットの上部にあるロック/電源ボタンを長押しして、ユニットの電源をオンにします。上にスワイプしてロックを解除し、MaxiSysジョブメニュー画面に入ります。



図 3-1 MaxiSysジョブメニュー

1. アプリケーションボタン
2. ロケータ そしてナビゲーションボタン
3. ステータスアイコン

NOTE

システム内の情報を保護し、電力を節約するために、使用していないときは画面をロックすることをお勧めします。

タブレットのほぼすべての操作は、タッチスクリーンで実行されます。タッチスクリ

ーンのナビゲーションはメニュー方式で、一連の質問とオプションを通じて、必要なテスト手順やデータにすばやくアクセスできます。

メニュー構造の詳細な説明は、各アプリケーションの章に記載されています。

3.1.1 アプリケーションボタン

以下の表では、MaxiSys システムの各アプリケーションについて簡単に説明します。

表 3-1 アプリケーション

ボタン	名前	説明
	診断	診断機能にアクセスします。
	サービス	特別機能メニューにアクセスします。
	ADAS	ADASシステムにアクセスします。。
	データマネージャー	保存されたデータ(修理工場、顧客、車両データ等)にアクセスします。車両診断レポート記録が含まれます。
	セッティング	MaxiSys システム設定を設定したり、タブレットに関する一般情報を表示したりできます。
	VCIマネージャー	VCI デバイスへの Bluetooth 接続を確立および管理します。
	サポート	Autelのオンラインサービスデータベースを MaxiSysタブレットと同期します。
	アップデート	システムソフトウェア更新メニューにアクセスします。
	GW認証	OE ゲートウェイのロックを解除するための権限を管理します。

	バッテリーテスト	車内テストと車外テストの2つの機能を備えたバッテリーテストメニューにアクセスします。
--	-----------------	--

ボタン	名前	説明
	ハンドヘルド 傾斜計	タブレットをハンドヘルド傾斜計に接続して、メルセデスベンツ車の車高を測定します。
	リモート デスク	TeamViewer アプリケーション プログラムを使用してリモート サポートを受けるようにユニットを設定します。
	クイックリンク	関連する Web サイトのブックマークを提供し、製品の更新、サービス、サポート、その他の情報にすばやくアクセスできるようにします。
	Demonstration	診断のためのステップバイステップの操作デモンストレーションを提供します。
	User Feedback	タブレットの使用中に問題が発生した場合、このアプリケーションを通じてフィードバックを送信できます。
	MaxiViewer	サポートされている機能や車両をすばやく検索できます。
	デジタル検査	車両の詳細な検査のためにイメージャー ヘッドケーブルに接続して、ユニットをビデオ スコープ デバイスとして動作するように構成します。
	スコープ	ユニットを自動車用オシロスコープとして動作するように構成し、電気および電子回路のテストを実行し、信号アクティビティを監視します。
	Autelユー ザーセンタ ー	ユーザーが Autel ツールを登録して、最新リリースのソフトウェアをダウンロードできるようにします。

3.1.2 ロケータとナビゲーションボタン

画面下部のナビゲーションボタンの操作については、下の表で説明します。

表 3-2 ロケータ とナビゲーションボタン

ボタン	名前	説明
	ロケータ	画面の位置を示します。画面を左右にスワイプすると、前または次の画面が表示されます。
	戻る	前の画面に戻る
	ホーム	マキシシスのジョブメニューに戻る
	Android ホーム	Andoroidシステムのホーム画面に戻る
	最近のアプリ	現在実行中のアプリケーションのリストを表示します。アプリケーションアイコンをタップすると、アプリケーションが起動します。アプリケーションをクリアにする時は、アプリケーションを横にスワイプします。
	Chrome	Andoroid内蔵のChromeを起動
	カメラ	カメラアイコン をタップするとカメラビューファインダーが開きます。アイコンを長押しすると現在のスクリーンショットが保存されます。
	ディス プレイ とサウ ンド	画面の明るさと音量の調整

	VCIショートカット	VCIマネージャーアプリケーションを開きます。 右下隅の緑色のバッジはタブレットが VCI デバイスと通信していることを示し、それ以外の場合は赤い十字アイコンが表示されます。
--	------------	--

アイコン	名前	説明
	診断ショートカット	診断画面に戻る
	サービスショートカット	サービス画面に戻る

➤ **カメラを使用するには**

1. 「カメラ」アイコンをタップします。カメラ画面が開きます。
2. ビューファインダー内で撮影する画像のピントを合わせます。
3. 画面右側のカメラアイコンをタップします。ビューファインダーに撮影した写真が表示され、撮影した写真が自動保存されるようになりました。
4. 画面右上のサムネイル画像をタップすると、保存されている画像が表示されます。
5. 「戻る」ボタンまたは「ホーム」ボタンをタップして、カメラアプリケーションを終了します。

 **NOTE**

カメラ画面を左から右にスワイプした後、カメラアイコンまたはビデオアイコンをタップすると、カメラモードとビデオモードを切り替えることができます。

3.1.3 システムステータスアイコン

MaxiSysタブレットは、標準の Android オペレーティングシステムのステータスアイコンを備えた、完全に機能する Android タブレットです。詳細については、Android のドキュメントを参照してください。

3.2 電源を切る

タブレットをシャットダウンする前に、すべての車両通信を終了する必要があります。VCI ユニットが車両と通信しているときにタブレットをシャットダウンしようとすると、警告メッセージが表示されます。通信中に強制的にシャットダウンすると、一部の車両では ECM の問題が発生する可能性があります。電源を切る前に診断アプリケーションを終了してください。

➤ **タブレットの電源を切るには**

1. **〔ロック/電源〕** ボタンを長押しします。
2. **〔電源を切る〕** をタップします。
3. **〔OK〕** をタップします。タブレットは数秒後に電源が切れます。

3.2.1 再起動システム

システムがクラッシュした場合は、**〔ロック/電源〕** ボタンを長押しして、タブレットの電源を切り、再起動します。

4 診断

診断アプリケーションでは、ECU 情報を取得したり、DTC を読み取り/消去、ライブデータを表示ができます。また、エンジン、トランスミッション、アンチロック ブレーキ システム (ABS)、エアバッグ システム (SRS) など、複数の車両制御システムの電子制御モジュールにアクセスすることもできます。

4.1 車両通信の確立

診断操作では、VCIデバイスを介して MaxiSysタブレットをテスト車両に接続する必要があります。タブレットとの適切な車両通信を確立するには、次の手順を実行する必要があります。

1. 通信と電源の両方のために、VCIデバイスを車両のDLCに接続します。
2. BluetoothペアリングまたはUSB接続を介してVCIデバイスをタブレットに接続します。
3. これらが完了したら、画面の下部バーにある VCIナビゲーションボタンを確認します。ボタンに緑色のバッジが表示されていれば、MaxiSys診断プラットフォームは車両診断を開始する準備ができています。

4.1.1.1 車両接続

VCIデバイスを車両のDLCに接続する方法は、車両の構成に応じて次のように異なります。

- On-board Diagnostics II (OBDII) システムを搭載した車両は、標準化された J-1962 DLC を通じて通信と12V 電力の両方を供給します。
- OBDIIシステムが装備されていない車両は、DLC接続を通じて通信を提供し、場合によっては、シガーライターレセプタクルまたは車両バッテリーへの接続を通じて12V の電力を供給します。

4.1.1.2 VCI接続

VCI デバイスが車両に適切に接続されると、VCIデバイスの電源 LEDが点灯し、ピープ音が鳴ります。これは、タブレットとの通信を確立する準備ができていることを示します。

MaxiSysツールキットに付属するVCIデバイスタブレットとの通信方法は Bluetooth または USBケーブルの2つをサポートします。

Bluetoothによるペアリング

オープンエリアでは、Bluetooth 通信の動作範囲は約50mなので、技術者は修理工場内のどこからでも車両診断を実行できる機動性が向上します。

複数の車両の診断を迅速に行うために、忙しい修理工場では複数のVCIを使用できます。これにより、技術者は Bluetooth経由で各VCI にMaxiSysタブレットをすばやくペアリングできるため、修理のために新しい車両が持ち込まれるたびに、1台の車両からVCIを取り外して別の車両に接続する必要がなくなります。

➤ Bluetooth経由でタブレットとVCIをペアリング接続する

1. タブレットの電源を入れます。
2. MaxiSysジョブメニューの**VCIマネージャー**を選択します。
3. VCIマネージャーアプリケーションが開いたら、接続モードリストから VCI BT を選択し、Bluetooth トグルボタンをスワイプしてONにします。デバイスは、Bluetooth ペアリングに使用可能な VCI デバイスを自動的にスキャンします。見つかったデバイスは、画面の右側のセクションに一覧表示されます。

🔍 NOTE

VCI デバイスが見つからない場合は、電波強度が弱すぎて検出できない可能性があります。VCI デバイスの位置を変え、電波干渉の原因となる可能性のあるすべての物体を取り除きます。右上隅の**スキャンボタン**をタップして、VCI を再スキャンします。

4. 通常、VCIデバイス名は「**Maxi-**」の末尾にシリアル番号が付きます。ペアリングする VCIデバイスを選択します。(ショップで複数の VCIが使用されている場合は、ペアリングする正しいVCIが選択されていることを確認してください。)
5. ペアリングが成功すると、接続ステータスが「**接続**」と表示されます。
6. タブレットとVCIが接続されると、画面下部のタブレットナビゲーションバーのVCIアイコンに緑色の円のBTアイコンが表示されます。

USBケーブルでの 接続

USB ケーブル接続は、タブレットと VCI デバイス間の通信を確立する簡単で迅速な方法です。タブレットから VCI デバイスに USB ケーブルを正しく接続すると、画面下部のバーにある VCI ショートカットに緑色の USB ケーブル バッジが表示され、VCI デバイスの接続 LED が緑色に点灯し、デバイス間の接続が成功したことを示します。

これで、MaxiSys 診断タブレットで車両診断を実行する準備が整いました。

NOTE

USBケーブル接続は最も安定した通信を提供するため、ECU コーディングを操作するときにタブレットと VCI 間の推奨通信モードです。USB 通信方法は、接続されている他の通信モードよりも優先されます。

4.1.1.1 通信メッセージなし

- A. タブレットがVCIデバイスに正しく接続されていない場合、「エラー」メッセージが表示される場合があります。これは、タブレットが車両制御モジュールにアクセスできないことを示します。この場合、次の検査を行う必要があります。
- VCI デバイスの電源がオンになっていることを確認します。
 - ワイヤレス接続を使用する場合は、ネットワークが正しく構成され、適切なデバイスが接続されていることを確認します。
 - 診断中にタブレットの通信が突然切断された場合は、電波が中断されるような物体がないことを確認します。
 - VCIデバイスがVCIの前面を上にして適切に配置されていることを確認します。
 - タブレットをVCI デバイスに近づけます。有線接続を使用している場合は、ケーブルがVCI にしっかりと接続されていることを確認します。
 - 選択した通信タイプ (Bluetooth または USB ケーブル) の VCI デバイスの接続 LED が点灯していることを確認します。
- B. VCIデバイスが通信リンクを確立できない場合、トラブルシューティングの手順を示すメッセージが表示されます。通信エラーの原因としては、次のようなものが考えられます。
- VCIデバイスは車両との通信リンクを確立できません。
 - 車両でサポートされていない車両システムが診断用に選択されています。
 - 接続が緩んでいます。
 - 車両のヒューズが切れています。
 - 車両またはデータケーブルに配線障害があります。
 - データケーブルまたはアダプターに回路障害があります。
 - 車両 ID が正しく入力されていません。

4.2 はじめに

診断アプリケーションを初めて使用する前に、VCIデバイスがタブレットに正しく接続され、通信していることを確認してください。

4.2.1 車両メニューレイアウト

VCIデバイスが車両に適切に接続され、タブレットとペアリングされると、プラットフォームは車両診断を開始する準備が整います。MaxiSysジョブメニューの**診断**アプリケーションボタンをタップすると、画面に車両メニューが表示されます。



図 4-1 車両メニュー画面

1. 上部 ツールバーボタン
2. メーカーボタン

4.2.1.1 上部ツールバー ボタン

画面上部のツールバーボタンの操作を下の表に表示します。

表 4-1 上部ツールバーボタン

ボタン	名前	説明
	ホーム	MaxiSys ジョブメニューに戻る
	VID	タップ これ ボタン に 開ける 1つの ドロップダウンリスこのボタンをタップすると、ドロップダウンリストが開きます: ・ [自動検出] をタップ; 自動VIN 検出を行います。

		<ul style="list-style-type: none"> ・[マニュアル入力] をタップ；VINコードまたはライセンス番号を手動で入力します。 ・[Scan VIN] をタップ；カメラでVINコード/ライセンス番号をスキャンします。 ・[車検証QR] をタップ；カメラで車検証のQRコードをスキャンします。
	すべて	車両メニューにすべての車両メーカーを表示
	常用	ユーザーが選択登録した車両メーカーを表示
	履歴	保存されているテスト車両履歴記録を表示。このオプションを使用すると、以前のテスト中に記録された以前にテストされた車両に直接アクセスできます。
	アメリカ	アメリカ地区の車両メーカーを表示
	ヨーロッパ	ヨーロッパ地区の車両メーカーを表示
	アジア	アジア地区の車両メーカーを表示
	中国	中国地区の車両メーカーを表示
	検索	仮想キーボードを開き、必要な特定の車両メーカーを手動で入力できるようにします。
	キャンセル	終了または操作をキャンセルします。

4.2.1.2 メーカーボタン

メーカーボタンには、さまざまな車両のブランド名が表示されます。VCI デバイスがテスト車両に正しく接続されたら、メーカーボタンを選択して診断セッションを開始します。

4.3 車両識別

MaxiSys 診断システムは、車両識別の6つの方法をサポートしています。

1. 自動検出
2. マニュアル入力
3. VIN/ライセンスをスキャン
4. マニュアル 車両選択
5. OBDII 直接エントリ
6. 車検証QRコード

4.3.1.1 自動検出

MaxiSys 診断システムは、ワンタッチで車両を識別する最新のVINベースの自動VINスキャン機能を備えており車両を迅速に検出し、すべての車両の診断可能な ECU をすべてスキャンし、選択したシステムで診断を実行できます。

➤ 自動検出するには

1. MaxiSysジョブメニューの**診断**をタップします。車両メニューが表示されます。
2. 上部ツールバーの **[VIDボタン]** をタップします。



図 4-2 VIDスクリーン

3. **[自動検出]** を選択します。車両のVINのスキャンを開始します。車両情報を正常に認識されると、車両のVINが画面に表示されます。
4. **[OK]**をタップして次の画面に進みます。画面の指示に従って、車両診断のメインメニュー画面が表示されます。

車両メーカーを選択した後も、VIN 自動検出機能は引き続き使用できます。

車両メニュー画面 (図 4-1 車両メニュー画面を参照) から車両メーカーを選択し、[診断タイプの選択] 画面から [自動選択] を選択して、[読み取り] をタップします。これにより、システムは VIN 情報を自動的に取得できるようになります。または、VIN を手動で入力することもできます。

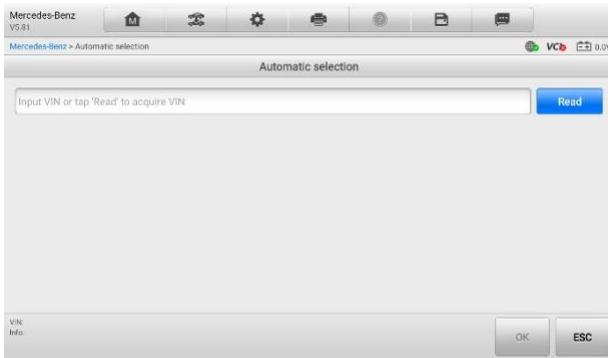


図 4-3 自動検出画面

4.3.1.2 マニュアル入力

自動検出機能をサポートしていない車両の場合、MaxiSys診断システムでは、車両のVIN またはライセンス番号を手動で入力するか、VINステッカーまたはライセンスプレートの写真を撮るだけで、車両をすばやく識別できます。

➤ マニュアル入力するには

1. MaxiSysジョブメニューの**診断**をタップします。車両メニューが表示されません。
2. 上部ツールバーの **[VIDボタン]** をタップします。

3. **【マニュアル入力】** を選択します。
4. 入力ボックスをタップし、正しいVIN コードまたはライセンス番号を入力します。
5. **【OK】** をタップします。車両が識別され、車両データベースと照合され、システムによって車両診断のメインメニュー画面が表示されます。

4.3.1.3 Scan VIN

MaxiSys診断タブレットは、VIN/ライセンスのスキャン機能もサポートしています。この機能を有効にすると、カメラが自動的にオンになります。カメラシステムを使用すると、車両のVIN またはライセンス番号を簡単に認識できます。

NOTE

ライセンススキャンの方法は、一部の国と地域でサポートされています。利用できない場合は、ライセンス番号を手動で入力してください。

➤ Scan VINを実行するには

1. MaxiSysジョブメニューの**診断**をタップします。車両メニューが表示されます。
2. 上部ツールバーの **[VIDボタン]** をタップします。
3. **[Scan VIN]** を選択します。
4. カメラがオンになります。画面の右側には、上から下に、QR コード/バーコードのスキャン、VIN のスキャン、ライセンス番号のスキャンの 3 つのオプションがあります。
5. 3つのオプションのいずれかを選択し、VIN、ライセンス番号、またはバーコードがスキャンウィンドウ内に収まるようにタブレットを配置します。スキャン結果は、認識結果画面のダイアログ ボックスに表示されます。 **[OK]** をタップして結果を確認すると、車両情報の確認画面がタブレットに表示されます。



図 4-4 Scan VIN VIN認識

6. VIN、ライセンス番号、またはバーコードをスキャンできない場合は、手動で入力できます。 **[OK]**をタップして**続行**します。続行するには、テスト対象の車両のVINを確認してください。

4.3.1.4 マニュアル車両選択

車両の ECUから車両の VIN を自動的に取得できない場合、または特定の VINが不明な場合は、手動で車両を選択できます。

ステップバイステップの車両選択

この車両選択モードはメニュー方式です。車両メニュー画面で車両メーカーを選択す

ると、診断タイプの選択画面が表示されます。次に、手動選択ボタンをタップします。同じ画面で、ブランド、モデル、容量、エンジン タイプ、モデル年などの車両情報を選択します。画面の右下隅にあるESCボタンをクリックすると、前の画面に戻ります。必要に応じて、リセット ボタンをタップして車両情報を再選択します。

4.3.1.5 OBDII直接エントリ

場合によっては、タブレットが車両を識別できないことがあります。このような車両の場合、

ユーザーは汎用 OBDII または EOBD 診断を実行できます。

4.4 ナビゲーション

4.4.1 診断画面レイアウト

車両情報を選択したら、画面右下の「OK」ボタンをタップしてメインメニュー画面を開きます。このセクションには、自動スキャンやコントロールユニットなど、よく使用されるさまざまな機能が含まれています。表示される利用可能な機能は車両によって異なります。

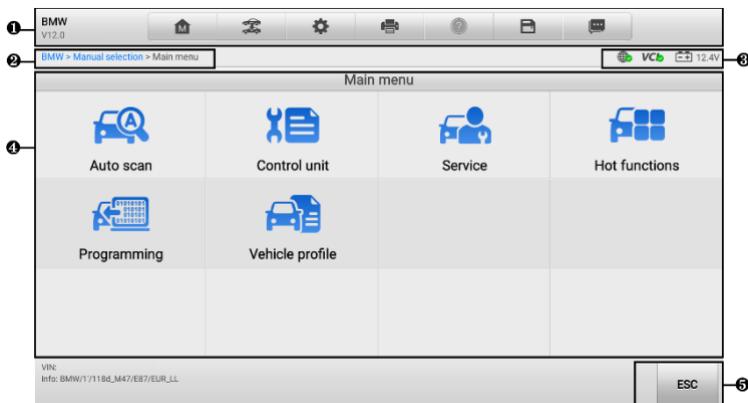


図 4-5 メインメニュー画面

1. 診断ツールバー
2. 現在ディレクトリパス
3. 状態情報バー

4. メインセクション
5. ファンクションボタン

4.4.1.1 診断ツールバー

診断ツールバーには、表示されたデータを印刷または保存したり、その他の操作を実行したりできるボタンが含まれています。次の表は、診断ツールバーのボタンの操作について簡単に説明したものです。

表 4-2 診断ツールバー ボタン

名前	ボタン	説明
ホーム		MaxiSys ジョブメニューに戻る
車両スワップ		診断セッションを終了し、車両メニュー画面に戻り、テストする別の車両を選択します。
セッティング		セッティングを開く
印刷		表示されたデータのコピーを保存して印刷します。
ヘルプ		さまざまな診断機能の操作に関する指示やヒントを提供します
保存		データ保存のオプションを提供するサブメニューを開きます。
データログ記録		車両のテストまたは診断中にエラーが発生した場合は、この機能を使用してください。この機能は、テスト車両の通信データと ECU情報を記録し、Autelに送信して、確認と解決策を提供します。サポートアプリケーションに移動して、処理の進行状況を確認してください。

➤ 診断データの印刷

1. MaxiSysジョブメニューの**診断**をタップします。診断ツールバーの印刷ボタンは、診断操作全体を通じて使用できます。

2. **印刷**をタップすると、ドロップダウンメニューが表示されます。
 - a) このページを印刷 - 現在の画面のスクリーンショットコピーを印刷します。
 - b) すべてのデータを印刷 - 表示されているすべてのデータの PDF コピーを印刷します。
3. 一時ファイルが作成され、コンピューター経由でプリンターに送信されます。
4. ファイルが送信されると、確認メッセージが表示されます。

NOTE

印刷する前に、タブレットとプリンターがWi-FiまたはLANで接続されていることを確認してください。

➤ 診断でデータロギングレポートを送信するには

1. MaxiSysジョブメニューから**診断**をタップします。診断ツールバーの [**データロギング**] ボタンは、診断操作全体を通じて使用できます。
2. [**データロギング**] ボタンをタップして、エラーオプションを表示します。特定のエラーを選択すると、送信フォームが表示され、レポート情報を入力できます。
3. 画面の右上隅にある [**送信**] ボタンをタップして、ネットワーク経由でレポート フォームを送信します。正常に送信されると、確認メッセージが表示されます。

4.4.1.2 現在ディレクトリパス

現在のディレクトリパスには、現在のページにアクセスするためのすべてのディレクトリ名が表示されます。

4.4.1.3 状態情報バー

メイン セクションの右上にあるステータス情報バーには、次の項目が表示されます。

1. **ネットワーク 状態アイコン** — ネットワークが接続されているかどうかを示します。
2. **VCIアイコン** — タブレットと VCIデバイス間の通信状態を示します。
3. **バッテリーアイコン** — 車両のバッテリーの状態を示します。

4.4.1.4 メインセクション

メインセクションは操作の段階によって異なり、車両識別の選択、メインメニュー、テストデータ、メッセージ、手順、その他の診断情報が表示されます。

4.4.1.5 ファンクションボタン

画面の下部に表示される機能ボタンは、操作によって異なります。機能には、ナビゲーション、レポート、コードのクリアなどがあります。これらのボタンの機能については、関連する次のセクションで説明します。

NOTE

診断ツールバー(画面上部にあります)は、表示されたデータの印刷と保存、ヘルプ情報の取得、データ ログの実行などのタスクを実行するために、診断セッション全体を通じてアクティブになります。

4.4.2 画面メッセージ

続行する前に追加の入力が必要な場合、メッセージが表示されます。画面上のメッセージには、主に確認、警告、エラーの3つの種類があります。

4.4.2.1 確認メッセージ

確認メッセージは、元に戻すことのできないアクションを実行しようとしているとき、またはアクションが開始されて続行するために確認が必要な場合に表示されます。

ユーザーの応答が不要な場合は、メッセージが短時間表示されます。

4.4.2.2 警告メッセージ

このメッセージは、選択したアクションによってデータの不可逆的な変更や損失が発生する可能性があるという警告を表示します。このタイプのメッセージの例としては、「コードの消去」メッセージがあります。

4.4.2.3 エラーメッセージ

システムエラーまたは手順エラーが発生すると、エラーメッセージが表示されます。考えられるエラーの例としては、ケーブルの切断や通信の中断などがあります。

4.5 診断メニュー

診断アプリケーションを使用すると、車両の診断とメンテナンスのために、VCIデバイスを介して車両のECUとのデータ接続を確立できます。

メインメニュー画面(図 4-5 メインメニュー画面を参照)では、コードの読み取り、コードのクリア、包括的な自動車診断機能の実行などを行うことができます。機能を選択すると、タブレットは VCI デバイスを介して車両との通信を確立し、選択内容に基づいて対応する機能メニューまたは選択メニューに入ります。

4.6 診断機能

診断機能にアクセスする場合、次の2つのオプションが利用できます。

1. オートスキャン — 車両上の利用可能なすべてのシステムの自動スキャンを開始します。
2. コントロールユニット — テスト車両の利用可能なすべての制御ユニットの選択メニューを表示します。

オートスキャン

オートスキャン機能は、車両 ECU内のすべてのシステムを包括的にスキャンして、故障を特定し、DTCを取得します。

オートスキャン画面のメイン セクションには、ほとんどの車両のシステム リストが表示されます。フォルクスワーゲン、アウディ、BMW、フォード、ランドローバー、ジャガー、クライスラー、フィアット、ボルボなど、主要なメーカーのトポロジーマップも表示されます。故障が検出されなかったシステムは緑色で表示され、故障を含むシステムはオレンジ色で表示されます。開始するには、画面下部の **[故障スキャン]** をタップします。

A. トポロジーマップ ページ

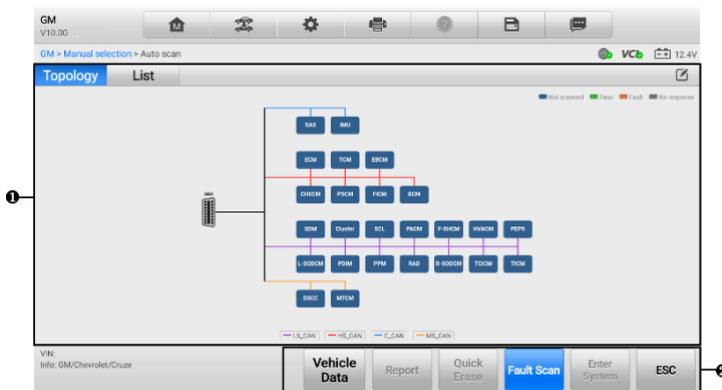


図 4-6 トポロジーマップ ページ

B. リストページ

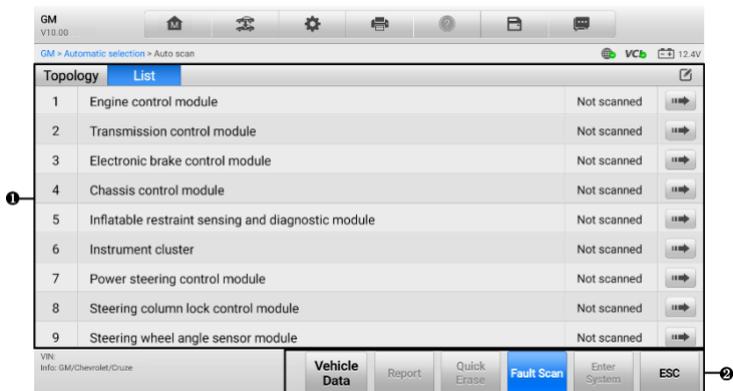


図 4-7 リストページ

1. メインセクション

A. トポロジーマップで表示する場合

テスト対象車両のECUシステムは、車両制御回路のケーブルとシステムのレイアウトとデータ伝送に使用されるバスを説明するトポロジーマップの形式で表示されます。機能ボタンから故障スキャンをタップします。合計故障数が右上隅に表示され、スキャン後の結果がさまざまな色で表示されます。

- 緑色：システムは故障を検出していません。
- グレー色：システム応答を受信していません。
- 青色：システムはスキャンされていません。
- オレンジ色：システムに故障を検出しました。故障の数は右上隅に表示されます。

B. リストで表示する場合

- 列 1 — システム番号の表示
- 列 2 — スキャンしたシステムの表示
- 列 3 — スキャン結果の表示

◇ **故障** | #: 検出された障害コードが存在することを示します。「#」

は検出された故障の数を示します。

- ◇ **PASS | 故障なし**: システムがスキャンされ、故障が検出されなかったことを示します。
- ◇ **スキャン済み**: システムがスキャンされていないか、車両制御システムが検出されたがアクセスできないことを示します。
- ◇ **応答なし**: システムが応答を受信しなかったことを示します。
- 列4—ボタンをタップすると、さらに診断を実行するためのシステムに入ります。

2. ファンクションボタン

以下の表に、機能ボタンの簡単な説明を示します:

表 4-3 オートスキャン画面の機能ボタン

名前	説明
レポート	診断データをレポート形式で表示
クイック消去	スキャン後に、全てのDTCを消去します
故障スキャン	車両システムのモジュールをスキャンします
Enter System	ECUシステムに入る
ESC	前の画面に戻るかオートスキャンを終了

▶ オートスキャン機能を実行するには

トポロジーマップの例:

1. MaxiSysジョブメニューの**診断**ボタンをタップします。対応する車両情報を選択し、メインメニュー画面に入ります。(図 4-5 メインメニュー画面を参照)
2. メインメニュー画面で自動スキャンを選択します。
3. メインセクションにトポロジーマップが表示されます。画面下部の**故障スキャン** ボタンをタップして、車両システムモジュールをスキャンします。

コントロールユニット

コントロールユニット機能を使用すると、一連の選択を通じて、テストに必要なコントロールシステムを手動で見つけることができます。メニューベースの手順に従い、毎回適切な選択を行うだけで、いくつかの選択を行った後、プログラムによって診断機能メニューが表示されます。



図 4-8 診断ファンクション画面

利用可能な機能は車両によって異なる場合があります。機能メニューには以下が含まれます：

- **ECU 情報** — 詳細なECU情報を表示します。
- **トラブルコード** — 読み取りコードと消去コードが含まれます。車両制御モジュールから取得した詳細なDTC情報を表示します。DTCやその他のデータをECUから消去するのに役立ちます。
- **ライブデータ** — 車両のECU からライブ データとパラメータを取得して表示します。
- **アクティブテスト** — 特定のサブシステムおよびコンポーネント テストを提供します。この選択は、アクチュエータ、アクチュエータテスト、または機能テストとして表示される場合があります。利用可能なテストは車両によって異なります。
- **特別機能** — さまざまなコンポーネントの適応を実行

➤ **診断機能を実行する**

1. MaxiSysタブレットをVCIデバイスに接続します。
2. MaxiSysジョブメニューの**診断**ボタンをタップします。MaxiSysタブレットでサポートされている車両識別方法のいずれかを使用して、車両を識別します。
3. オートスキャンまたはコントロールユニットをタップして、必要なテストシステムを見つけます。
4. 診断機能画面から実行する必要がある機能を選択します。

4.6.1 ECU情報

ユニットタイプ、バージョン番号、その他の情報など、テスト対象の制御ユニットの特定の情報を取得して表示します。



図 4-9 ECU情報 画面

1. 診断ツールバーボタン — 各ボタンの操作の詳細については、表4-2「診断ツールバーのボタン」を参照してください。
2. メインセクション - 左の列にはアイテム名が表示され、右の列には仕様または説明が表示されます。
3. 機能ボタン - この場合、**ESC**ボタンのみが使用可能です。閲覧後はタップして終了してください。

4.6.2 トラブルコード

トラブルコード画面には、フリーズフレーム、コードの読み取り、およびコードの消去機能ボタンが含まれています。表示するフリーズフレームデータがある場合、フリーズフレームボタンがアクティブになります。コードの消去ボタンをタップすると、ECU から DTC およびその他のデータが消去され、コードの読み取りボタンをタップすると、車両制御モジュールから取得された詳細な DTC情報が表示されます。診断機能画面からトラブルコードをタップすると、タブレットは自動的に ECUのDTC情報を読み取ります。

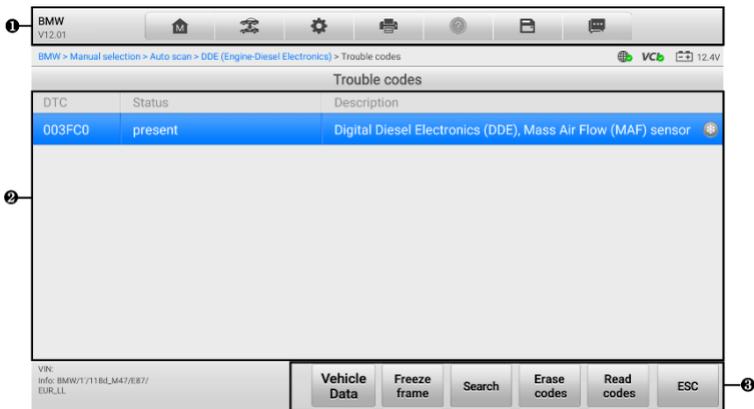


図 4-10 トラブルコード画面

1. 診断ツールバーボタン — 各ボタンの操作の詳細については、表 4-2 診断ツールバーボタンを参照してください。
2. メインセクション
 - 列 1 — 車両から取得したコードの表示
 - 列 2 — 取得したコードのステータスを表示
 - 列 3 — 取得したコードの詳細な説明を表示
 - 雪の結晶アイコン — フリーズフレームデータを表示できる場合にのみ表示されます。このアイコンを選択すると、コード読み取り画面と似たデータ画面が表示されます。
3. ファンクションボタン
 - **フリーズフレーム** — フリーズフレームデータが表示可能な場合は、雪の結晶アイコンが表示されます。ボタンをタップするとデータ画面が表示されます。フリーズフレーム画面はトラブルコード画面と似ており、同様の操作を共有しています。
 - **サーチ** — タップすると、選択したDTCの追加情報がインターネット上で検索されます。
 - **コードの消去** — タップすると ECU からコードを消去します。コードを消去する前に、DTCを読み取り、必要な修復を行うことをお勧めします。

車両から取得したコードを読み取り、特定の修理を行った後、この機能を使用して車両からコードを消去できます。この機能を実行する前に、車両のイ

グニッションキーがオン位置にあり、エンジンがオフになっていることを確認してください。

➤ **コードを消去するには**

1. ファンクションボタンの **[DTC消去]** をタップします。
 2. この機能を適用すると、データが失われることを通知する警告メッセージが表示されます。
 - ◇ 「はい」をタップして続行します。操作が正常に完了すると、確認画面が表示されます。
 - ◇ 「いいえ」をタップして終了します。
 3. 確認画面で **[ESC]** をタップして、「コード消去」画面を終了します。
 4. 「コード読み取り」機能を再度チェックして、操作が成功したことを確認します。
- **コードの読み取り** — 車両制御システムからDTCを取得して表示します。コードの読み取り画面は、テスト対象の車両ごとに異なります。
 - **ESC** — タップすると、前の画面に戻るか、機能を終了します。

4.6.3 ライブデータ

選択したモジュールのデータリストが画面に表示されます。パラメータはECUから送信された順序で表示されるため、車両ごとに異なる可能性があります。

ジェスチャスクロールを使用すると、データリスト内をすばやく移動できます。データが複数の画面を占める場合は、画面をタッチして指を上下にドラッグすると、表示されているパラメータの位置を変更できます。下の図は、一般的なライブデータ画面を示しています。

① BMW V12.01

BMW > Manual selection > Auto scan > DDE (Engine-Diesel Electronics) > Live data VCB 12.4V

Exhaust emission system *

Name	Value	Unit
<input type="checkbox"/> Enable regeneration	Regeneration enabled	
<input type="checkbox"/> Exhaust temperature upstream catalytic converter	55.94	°C
② <input type="checkbox"/> Exhaust gas backpressure	6.88	mbar
<input type="checkbox"/> Exhaust gas temperature (EGT) before particle filter	55.94	°C
<input type="checkbox"/> Request for regeneration	Regeneration not requested	
<input type="checkbox"/> Distance travelled since regeneration	3234048	m
<input type="checkbox"/> Status of regeneration	Regeneration inactive	

③

Group Cancel All Show Selected Graph Merge To Top Setting Clear Data Freeze Record Review Back

図 4-11 ライブデータ画面

1. 診断ツールバーボタン -各ボタンの操作の詳細については、表4-2「診断ツールバーのボタン」を参照してください。
2. メインセクション
 - 名前 — パラメータの名称を表示
 - ◇ チェックボックス — パラメータの左側にあるチェックボックスをタップして項目を選択します。チェックボックスをもう一度タップすると選択が解除されます。
 - ◇ ドロップダウンボタン —パラメータの右側にあるドロップダウンボタンをタップすると、データを表示するオプションモードを提供するサブメニューが開きます。
 - 値 — パラメータの値を表示
 - 単位 — パラメータ値の単位を表示します。単位モードを変更する必要がある場合は、上部の診断ツールバーにある設定ボタンをタップして、必要なモードを選択します。単位を参照してください。
3. ファンクションボタン — ライブデータ画面には多くの機能ボタンがありますが、ライブデータ画面で使用できる機能ボタンの操作については後述します。

a) 画面モード

データ表示には 4種類の表示モードが用意されており、さまざまなタイプのパラメータを、データを表すのに最適なモードで表示できます。パラメータの右側にあるドロップダウンボタンをタップすると、サブメニューが開きます。合計8つのボタンが表示されます。左側の4つのボタンは、さまざまなデータ表示モードを表します。さらに、追加情報が利用可能な場合にアクティブになる情報ボタンが1つ、選択したパラメータ項目を同じグループに設定するためのグループボタンが1つ、表示されるデータの単位を切り替える単位変更ボタンが1つ、トリガー設定ウィンドウを開くためのトリガーボタンが1つあります。



図 4-12 画面モード画面

各パラメータ項目は選択されたモードを個別に表示します。

◇ **アナログゲージモード** — ゲージチャートにパラメータを表示します。

◇ **テキストモード** — パラメータをテキストリストとして表示するデフォルトモード。

NOTE

ON、OFF、ACTIVE、ABORT などのスイッチ読み取り値などのステータスパラメータは、テキストモードでのみ表示できます。センサー読み取り値などの値パラメータは、テキストモードとグラフモードの両方で表示できます。

◇ **波形グラフモード** — パラメータを波形グラフで表示

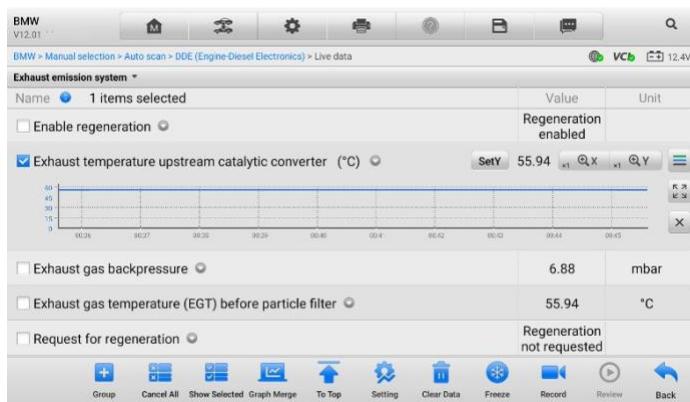


図 4-13 波形グラフモード画面

このモードでは、パラメータの右側に5つのコントロールボタンが表示され、表示ステータスを操作できます。

- 1) **設定ボタン (Yを設定)** — Y軸の最小値と最大値を設定
- 2) **スケールボタン** - スケール値の変更
波形グラフの右側の上部に2つのスケールボタンが表示され、グラフのX軸とY軸のスケール値を変更できます。X軸には、x1、x2、x4、x8の4つのスケールがあります。Y軸には、x1、x2、x4の3つのスケールがあります。
- 3) **編集ボタン** — 波形の色と線の太さを編集
- 4) **ズームインボタン** - タップすると、選択したデータグラフが全画面で表示されます。
- 5) **終了ボタン** — タップすると、波形グラフモードが終了

全画面表示 — このオプションは波形グラフモードでのみ使用でき、主にグラフ結合状態でデータ比較に使用されます。このモードでは、画面の右上に4つのコントロール ボタンがあります。

- **スケールボタン**— タップすると、波形グラフの下のスケール値が変更されます。X軸には、x1、x2、x4、x8の4つのスケールがあります。Y軸には、x1、x2、x4の3つのスケールがあります。
- **編集ボタン**— タップすると編集ウィンドウが開き、選択したパラメータ項目に表示される波形の色と線の太さを設定できます。
- **ズームアウトボタン**— タップすると全画面表示を終了
- **Exitボタン**— タップすると波形グラフモードが終了

➤ **データグラフの波形の色と線の太さを編集するには**

1. 波形グラフモードで表示するパラメータを選択します。
2. 編集ボタンをタップすると、編集ウィンドウが表示されます。



図 4-14 波形編集画面

3. 左の列でパラメータ項目が自動的に選択されます。
4. 2番目の列から色を選択します。
5. 右の列から線の太さを選択します。
6. 設定を保存して終了するには [完了] をタップし、保存せずに終了するには [キャンセル] をタップします。

🔍 **NOTE**

全画面表示の場合は、画面右上の編集ボタンをタップして波形の色や線の太さを編集してください。

◇ **デジタルゲージモード** — パラメータをデジタルゲージグラフの形式で表示します。

b) トリガー設定

トリガー設定画面では、最小値と最大値を入力して標準範囲を設定できます。この範囲を超えると、トリガー機能が実行され、デバイスは生成されたデータを自動的に記録して保存します。画面下部のレビューボタンをタップすると、保存されたライブデータを確認できます。

パラメータの右側にあるドロップダウンボタンをタップしてサブメニューを開きます。トリガーボタンはサブメニューの最後のボタンです。タップすると「トリガー設定」ウィンドウが表示されます。



図 4-15 トリガー設定画面

トリガー設定ウィンドウには、2つのボタンと2つの入力ボックスがあります。

- a) **トリガー** — トリガーのオン/オフを切り替えます。トリガーはデフォルトでオンになっています。
- b) **ブザーアラーム** — アラームのオン/オフを切り替えます。アラーム機能は、データの読み取り値が事前に設定された最小値または最大値に達すると、警告としてピープ音を鳴らします。ブザーアラームは最初のトリガー時にのみ鳴ります。
- c) **MIN** — この入力ボックスをタップすると、必要な下限値を入力するための仮想キーボードが表示されます。
- d) **MAX** — この入力ボックスをタップすると、必要な上限値を入力するための仮想キーボードが表示されます。

➤ **トリガーを設定するには**

1. パラメータ名称の右側にあるドロップダウンボタンをタップしてサブメニューを開きます。
2. サブメニューの右側にある**トリガーボタン**をタップして、トリガー設定ウィンドウを開きます。
3. 最小値入力ボックスをタップして仮想キーボードを表示し、必要な最小値を入力できるようにします。
4. 最大値入力ボックスをタップして仮想キーボードを表示し、必要な最大値を入力できるようにします。
5. [OK] をタップして設定を保存し、ライブ データ画面に戻るか、[キャンセル] をタップして保存せずに終了します。

🔪 **NOTE**

トリガーが正常に設定されると、パラメータ名の前にトリガーマークが表示されます。トリガーされていない場合は灰色で、トリガーされるとオレンジ色で表示されます。さらに、各データグラフ（波形グラフ モードが適用されている場合）に2本の水平線が表示され、アラームポイントが示されます。リミットラインは、パラメータ波形と区別するために異なる色で表示されます。

c) **ファンクションボタン**

ライブデータ画面で利用可能な機能ボタンの操作については、以下で説明します。

- ✧ **グループ** — 選択したパラメータ項目が同じグループに設定されます。
- ✧ **選択解除** — 選択したパラメータ項目がすべてキャンセルされます。一度に選択できるパラメータは最大 50 個です。
- ✧ **選択項目を表示** — 2つのオプションが切り替わります。1つは選択したパラメータを表示し、もう1つは使用可能なすべての項目を表示します。
- ✧ **グラフ統合** — 選択したデータグラフが統合されます（波形グラフモードのみ）。こ

🔪 **NOTE**

の機能は、さまざまなパラメータを比較するときに非常に便利です

このモードでは、デジタルで表現できる 2~5個のパラメータのグラフマージがサポートされます。非デジタルパラメータはサポートされません。

➤ 選択したデータグラフを統合する

1. 統合するパラメータ項目を選択します。
2. ライブデータ画面の下部にある **[グラフ統合]** ボタンをタップします。
 - a) このモードでは、デジタルで表現できるパラメータのみがサポートされます。非デジタルパラメータを選択した場合は、選択したパラメータがこのモードではサポートされていないことをユーザーに通知し、2～5個のデジタルパラメータを選択するように通知するメッセージが表示されます。了解ボタンをタップして前の画面に戻り、サポートされているパラメータを選択します。
 - b) 選択したパラメータがこのモードでサポートされていない場合は、サポートされているパラメータのみを選択するようにユーザーに通知するメッセージが表示されます。5個を超えるパラメータを選択した場合にもメッセージが表示されます。サポートされているパラメータを 2～5個選択し、**[OK]** ボタンをタップして統合してください。
3. ライブデータ画面の下部にある **[統合をキャンセル]** ボタンをタップして、統合をキャンセルします。

◇ **トップへ** — 選択したデータ項目をリストの先頭に移動します。

◇ **セッティング** — 記録時間を設定

➤ ライブデータ記録時間を設定するには

1. ライブデータ画面の下部にある設定ボタンをタップします。
2. トリガー後の記録時間バーの右側にある **>** ボタンをタップし、時間の長さを選択します。
3. **[OK]** をタップして設定を保存し、ライブデータ設定画面に戻るか、右上隅の「**X**」ボタンをタップして保存せずに終了します。
4. ライブデータ設定画面の右上隅にある完了をタップして設定を確認して保存し、ライブデータ画面に戻るか、キャンセルをタップして保存せずに終了します。

◇ **データ消去** — キャッシュされたすべてのライブデータがクリアされます。

◇ **フリーズ** — 取得したデータをフリーズモードで表示します。

- 前のフレーム — フリーズデータの前のフレームに移動します。

- 次のフレーム — フリーズ データの次のフレームに移動します。
 - 再生/一時停止 — タップに再生/一時停止の凍ったデータ。
 - 再開 — フリーズ データ モードが終了し、通常のデータ表示に戻ります。
- ◇ **レコード** — 選択したデータ項目のライブ データの記録を開始します。ライブ データ画面の下部にある記録ボタンをタップします。記録するパラメータを選択するようユーザーに求めるメッセージが表示されます。確認するには、Got It ボタンをタップします。下にスクロールして、記録するデータを選択します。記録ボタンをタップして記録を開始します。再開ボタンをタップして記録を停止します。記録されたライブデータは、ライブデータ画面の下部にあるレビューセクションで表示できます。記録されたデータは、データマネージャーアプリケーションでも確認できます。
- 再開 — このボタンをタップすると、データの記録が停止し、通常のデータ表示に戻ります。
 - フラグ — このボタンは、記録機能が適用されているときに表示されます。このボタンをタップすると、データの記録時に注目ポイントをメモするためのフラグを設定できます。メモは、再生中にレビューまたはデータ マネージャーで追加できます。プリセット フラグを選択すると、ポップアップ ウィンドウが開き、メモを入力するための仮想キーボードが表示されます。
- ◇ **レビュー** — 記録されたデータを確認します。[レビュー]ボタンをタップして記録

NOTE

リストを表示し、確認する項目を1つ選択します。

ライブデータ画面では、現在の操作中に記録されたデータのみを確認できます。すべての履歴記録データは、データマネージャーのデータの確認から確認できます。

- 前のフレーム — 記録データの前のフレームに切り替えます。
 - 次のフレーム — 記録データの次のフレームに切り替えます。
 - 再生/一時停止 — タップして記録データを再生/一時停止します。
 - 選択を表示 — 選択したパラメータを表示します。
 - グラフ統合 — 選択したデータグラフを統合します。
 - 戻る — レビューを終了し、ライブデータ画面に戻ります。
- ◇ **戻る** — 前の画面に戻るか、機能を終了します。

4.6.4 アクティブテスト

車両固有のサブシステムおよびコンポーネントテストにアクセスするために使用されます。利用可能なテストは車両によって異なります。

アクティブテスト中、タブレットは ECU にコマンドを送信してアクチュエータをアクティブにします。このテストでは、ECU データを読み取るか、アクチュエータの動作を監視することによって、システムまたは部品の整合性を判断します。このようなテストには、ソレノイド、リレー、またはスイッチを 2 つの動作状態間で切り替えることが含まれます。アクティブ テストを選択すると、テストオプションのメニューが表示されます。利用可能なテストは車両によって異なります。メニューオプションからテストを選択します。画面に表示される指示に従ってテストを完了します。手順と指示は車両によって異なります。アクティブテスト画面の右下隅にある機能ボタンは、テスト信号を操作します。操作指示は、テスト画面のメインセクションに表示されます。画面の指示に従って適切な選択を行い、テストを完了します。終了したら、ESC ボタンをタップしてテストを終了します。

4.6.5 常用特別機能

カスタム構成のコンポーネント適応またはバリエーションコーディング機能が提供され、修理後に特定のコンポーネントの適応値を入力できます。テスト車両によっては、この選択がコントロールユニット適応、バリエーションコーディング、構成などとして表示されることがあります。

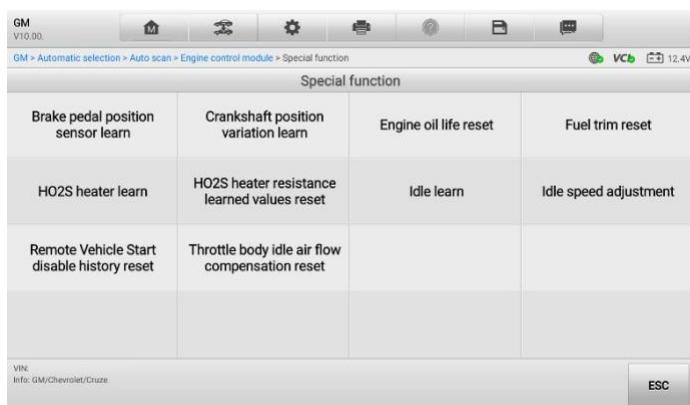


図 4-16 常用特別機能 画面

4.7 コーディング

コーディング画面のメインセクションには、車両コンポーネントのリストと、主に2つの部分で構成されるコーディング情報が表示されます。

1. コーディングに使用できるすべてのシステムが左側に表示され、コーディングデータまたは値が右側に表示されます。
2. メインセクションの下部には、操作を操作できる機能ボタンが表示されます。

車両の状態とコーディング情報を慎重に確認してください。機能ボタンを使用して、対応するコンポーネントのコードを編集します。すべての項目の編集が完了したら、[送信]をタップします。操作が完了すると、[完了]、[終了]、[成功]などの実行ステータスメッセージが表示される場合があります。機能を終了させるには、[ESC] ボタンをタップします。

4.8 EOBDIIオペレーション

OBDII/EOBD 車両診断オプションを使用すると、DTC の確認、点灯した故障表示ランプ (MIL) の原因の特定、排出ガス認証テスト前のモニターの状態の確認、その他の排出ガス関連サービスの実行を迅速に行うことができます。OBDII 直接アクセス オプションは、データベースに含まれていない OBDII/EOBD 準拠車両のテストにも使用されます。画面上部の診断ツール バー ボタンは、特定の車両診断に使用できます。詳細については、表 4-2 診断ツールバーボタンを参照してください。

4.8.1 一般的な手順

➤ OBDII/EOBD 診断機能にアクセスするには

1. MaxiSysジョブメニューから**診断**をタップします。車両メニューが表示されます。
2. **EOBDボタン**をタップします。車両との通信を確立するには2つのオプションがあります。
 - オートスキャン — 各プロトコルを使用して通信を確立し、車両がどのプロトコルを使用しているかを判断します。
 - プロトコル — さまざまなプロトコルのサブメニューが開きます。通信プロトコルは、ECMと診断ツール間のデータ通信の標準化された方法です。Global OBDでは、複数の異なる通信プロトコルが使用される場合があります。
3. プロトコルオプションが選択されている場合は、特定のプロトコルを選択します。OBDII/EOBD 診断メニューが表示されるまで待ちます。

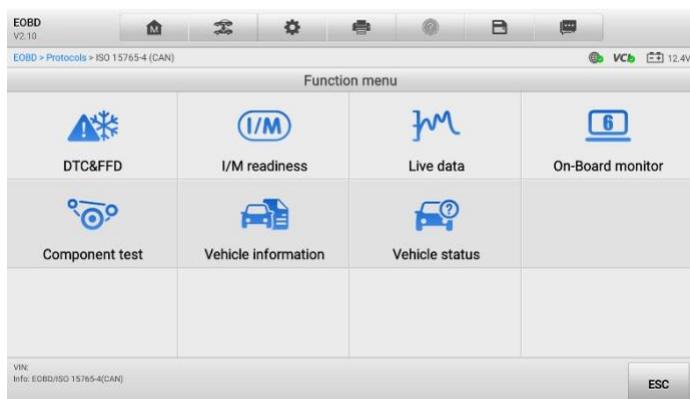


図 4-17 EOBD 診断メニュー

4. 機能オプションを選択して続行します。
 - DTC & FFD
 - I/M の準備状況
 - ライブデータ
 - オンボードモニター

- コンポーネントテスト
- 車両情報
- 車両状態

NOTE

サポートされる機能は車両によって異なる場合があります。

4.8.2 機能の説明

このセクションでは、各診断オプションのさまざまな機能について説明します。

4.8.2.1 DTC & FFD

この機能を選択すると、画面に保存されたコードと保留中のコードのリストが表示されます。特定の DTC のフリーズフレームデータが表示可能な場合は、DTC 項目の右側にスノーブレークボタンが表示されます。画面下部の機能ボタンをタップすると、コードの消去機能とコードの読み取り機能を適用できます。

● 現在コード

現在のコードは、車両のECMからの排出ガス関連のDTCです。OBD II/EOBDコードには、排出ガスの重大度に応じた優先順位があり、優先順位の高いコードが優先順位の低いコードを上書きします。コードの優先順位によって、故障表示ランプ (MIL) の点灯とコード消去手順が決まります。メーカーによってコードのランク付けが異なるため、DTCは車両によって異なる場合があります。

● 保留中のコード

これらは、最後の運転サイクル中に保存条件が満たされたコードですが、DTCが保存される前に、2回以上の連続した運転サイクルで満たされる必要があります。保留中のコードを表示する目的は、1回の運転サイクル後にテスト結果を報告することで、車両修理後に診断情報がクリアされたときにサービス技術者を支援することです。

- 運転サイクル中にテストが失敗すると、関連するDTCが報告されます。保留中の故障が40~80回のウォームアップサイクル以内に再発しない場合は、故障はメモリから自動的に消去されます。
- 報告されたテスト結果は、必ずしも故障のあるコンポーネントまたはシステムを示すものではありません。テスト結果が追加の運転後に別の故障を示している場合は、故障のあるコンポーネントまたはシステムを示すDTCが保存

されます。

- **フリーズ フレーム**

ほとんどの場合、保存されるフレームは最後に報告された DTC です。車両の排出ガスに大きな影響を与える特定の DTCには、より高い優先順位が付けられます。このような場合、最も優先順位の高い DTCのフリーズフレームレコードが保持されます。フリーズフレームデータには、DTCが保存された時点の重要なパラメータ値の「スナップショット」が含まれます。

● コードの消去

このオプションは、DTC、フリーズフレームデータ、および特定のメーカー拡張データを含む、すべての排出ガス関連の診断データを車両 ECM から消去するために使用されます。このオプションは、すべての車両モニターの I/M 準備モニターステータスを「準備完了」または「完了していない」ステータスにリセットします。

コードの消去オプションを選択すると、誤ってデータが失われるのを防ぐため、確認画面が表示されます。確認画面で [はい] を選択して続行するか、[いいえ] を選択して終了します。

I/M 準備状況

この機能は、監視システムの準備状況を確認するために使用されます。これは、車両の州排出ガス規制への適合検査を受ける前に使用するのに最適な機能です。I/M 準備状況を選択すると、2つの選択肢があるサブメニューが開きます。

- DTC がクリアされてから - DTC が最後に消去されてからのモニターの状態を表示します。
- この運転サイクル - 現在の運転サイクルの開始以降のモニターの状態を表示します。

4.8.2.2 ライブデータ

この機能により、ECU からのリアルタイム PID データを表示できます。表示されるデータには、アナログおよびデジタルの入力と出力、および車両データストリームでブロードキャストされるシステムステータス情報が含まれます。ライブデータはさまざまなモードで表示できます。詳細については、ライブデータを参照してください。

4.8.2.3 オンボードモニター

この機能を使用すると、オンボードモニターテストの結果を表示できます。テストは、車両の制御モジュールメモリがすでに消去されているサービス後に便利です。

4.8.2.4 コンポーネントテスト

この機能により、ECM の双方向制御が可能になり、診断ツールが制御コマンドを送信して車両システムを操作できるようになります。この機能は、ECM がコマンドにどの

程度応答するかを判断するのに役立ちます。

4.8.2.5 車両情報

この機能により、車両識別番号 (VIN)、キャリブレーション識別番号、キャリブレーション検証番号 (CVN)、およびテスト車両のその他の情報を表示できます。

4.8.2.6 車両状態

この機能は、OBDII モジュールの通信プロトコル、故障コードの数、故障表示灯 (MIL) のステータスなど、車両の現在の状態をチェックします。

4.9 診断レポート

4.9.1 プレスキャン&ポストスキャン機能

同じメンテナンスオーダー番号を入力してプレスキャン機能とポストスキャン機能を実行した後、[データマネージャー] > [車両履歴] をタップして、メンテナンスオーダー番号で名前が付けられた履歴テストレコードを選択します。プレスキャン結果とポストスキャン結果の両方が同じ履歴テストレコードに表示されます。この履歴テストレコードは PDF レポートとして生成でき、プレスキャンとポストスキャン間の変更を簡単に比較できます。

- **プレスキャン機能**

車両メニュー画面から車両ボタンを選択してタップします。ポップアップボックスにメンテナンスオーダー番号を入力して、車両全体をスキャンして検出します。写真を追加して、車両の現在の状態を記録することもできます。プレスキャンが完了すると、再度プレスキャンを実行することはできず、スキャン結果を変更することはできません。

- **ポストスキャン機能**

プレスキャンが完了したら、現在のテスト車両を終了し、車両メニュー画面から車両ボタンをタップして再接続します。ポップアップボックスに同じメンテナンスオーダー番号を入力します。ポストスキャンの画面が表示されます。スキャンが完了すると、ポストスキャンレコードが生成されます。プレスキャンの結果とポストスキャンの結果は、同じ履歴テストレコードに表示されます。

NOTE

ポストスキャン機能は繰り返し実行できます。車両から降りた後、車両メニュー画面から車両ボタンをタップして再接続し、ポップアップボックスに同じメンテナンスオーダー番号を入力して、手順に従って再スキャンします。最後のものが最終的なポス

トスキャン結果です。

4.9.2 診断レポートの保存、表示、共有

診断レポートは、さまざまな方法で確認、保存、他のユーザーと共有できます。

4.9.2.1 診断レポートの保存

- 履歴機能

- 1) 診断アプリケーションのメイン画面に入り、上部のツールバーの「履歴」をタップします。

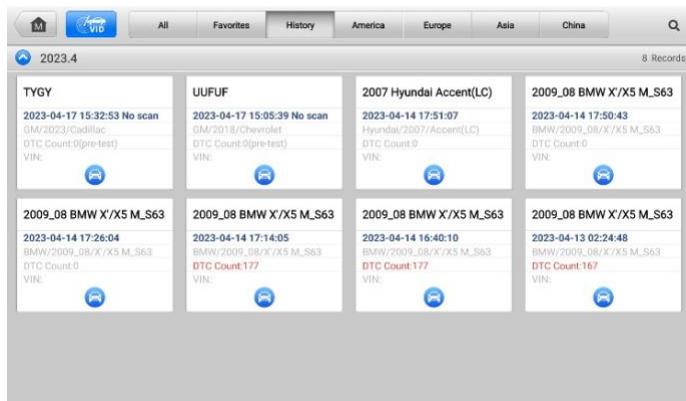


図 4-18 履歴画面

- 2) 履歴を選択し、右上のボタンをタップします。

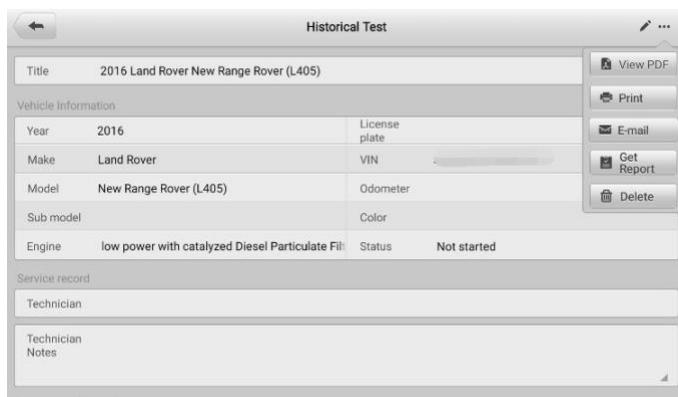


図 4-19 履歴テスト画面

- 3) 「**レポートを取得**」をタップします。ナンバープレートと現在の走行距離を入力します。「**保存**」をタップします。

- オートスキャン機能

- 1) オートスキャンページに入り、画面下部の機能ボタンから「故障スキャン」をタップします。

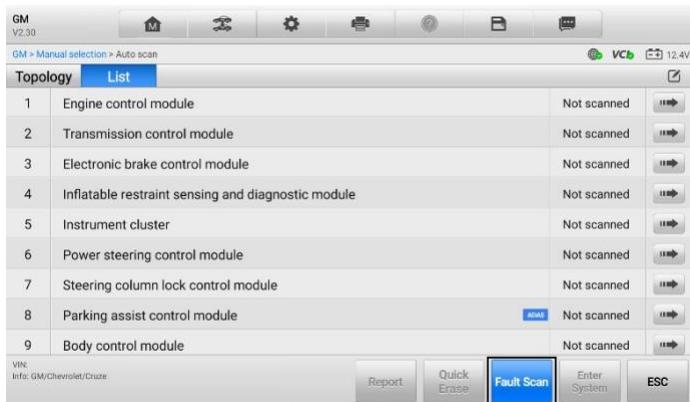


図 4-20 オートスキャン 画面 1

- 2) システムスキャンが完了したら、画面下部の機能ボタンから「レポート」をタップします。

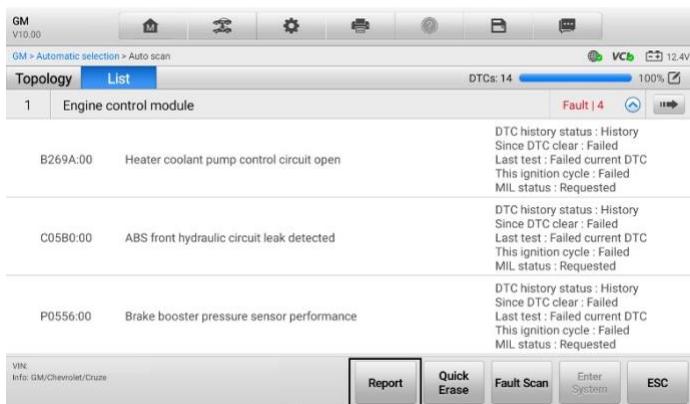


図 4-21 オートスキャン 画面 2

- 診断ツールバー機能

オートスキャンやトラブルコードなどの診断機能を実行中に診断レポートを保存することもできます。

- ◇ 診断ツールバーの  ボタンをタップし、「PDFとして保存」を選択します。ライセンス番号を入力して、「保存」をタップします。画面の右上のボタン  をタップしてレポートを表示します。
- ◇ 診断ツールバーの  ボタンをタップし、「クラウドに保存」を選択します。ライセンス番号と現在の走行距離を入力し、「保存」をタップします。



図 4-22 トラブルコード画面

4.9.2.2 診断レポートの表示

保存されたすべてのレポートは、データマネージャーアプリケーションで表示できます。

- ◇ [データマネージャー] > [PDF]をタップしてレポートを表示します。
- ◇ クラウドへのレポートボタンをタップしてレポートを保存したら、[データマネージャー] > [クラウドレポート]をタップしてこれらのローカルレポートを表示します。
- ◇ レポートの取得またはレポートの保存ボタンをタップしてレポートを保存したら、データマネージャー > レポートをタップしてこれらのレポートを表示します。

4.9.2.3 診断レポートのクラウド共有

- 1) データマネージャー > クラウドレポートをタップして、レポートリスト画面に入ります。

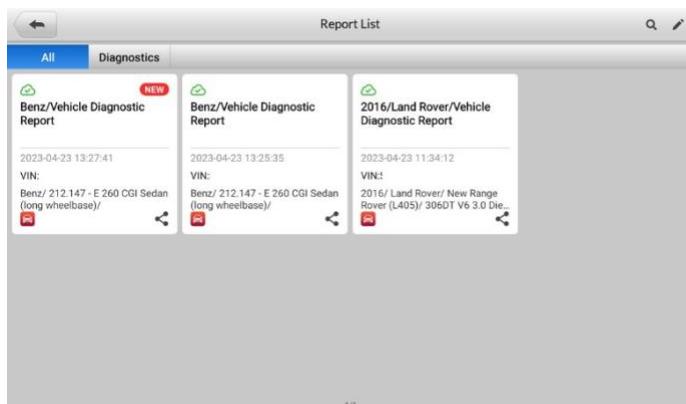


図 4-23 レポートリスト画面

- 2) レポート右下にある  をタップします。

NOTE

レポートに  が表示されている場合は、レポートがクラウドに正常にアップロードされており、他のユーザーとレポートを共有できることを意味します。レポートに  が表示されている場合は、レポートがクラウドにアップロードされなかったことを意味しますが、レポートを再度入力すると、自動的にクラウドにアップロードされます。

- 3) レポートのクラウド共有には、QRコードのスキャン、電子メールで送信、SMS（電話番号経由）で送信の3つの方法があります。

4.10 診断の終了

診断アプリケーションは、車両との通信がアクティブな状態で動作します。診断アプリケーションを閉じる前に、診断操作画面から適切に終了して、車両とのすべての通信を停止することが重要です。

NOTE

通信が中断されると、車両の電子制御モジュール(ECM) が故障する可能性があります

。テスト中は、データケーブル、USBケーブル、ワイヤレスまたは有線ネットワークなど、すべての形式の通信リンクが適切に接続されていることを確認してください。テストケーブルと電源を外す前に、すべての画面を終了してください。

➤ **診断アプリケーションを終了するには**

- アクティブな診断画面では
 1. 診断セッションを終了するには、**[戻る]** または **[ESC]** ボタンをタップします。
 2. または、診断ツールバーの **[車両スワップ]** ボタンをタップして、車両メニュー画面に戻ります。
- 車両メニュー画面では
 1. 画面下部のナビゲーションバーの **[戻る]** ボタンをタップします。
 2. または、診断ツールバーの **[ホーム]** ボタンをタップして、アプリケーション

🕒 **NOTE**

セッションを直接終了し、MaxiSysジョブメニューに戻ります。

診断アプリケーションを終了すると、タブレットは車両と通信しなくなり、他のMaxiSysアプリケーションを安全に開くことができます。

5 サービス

さまざまな定期サービスおよびメンテナンスタスクのために車両システムにすばやくアクセスできるように特別に設計されています。一般的なサービス操作画面は、一連のメニュードリブンの実行コマンドです。画面の指示に従って適切な実行オプションを選択し、正しい値またはデータを入力して、必要なアクションを実行します。アプリケーションには、選択したサービス操作を完了するための詳細な指示が表示されます。

各特殊機能を入力すると、画面に診断とホット機能の2つのアプリケーション選択肢が表示されます。診断では、特定の特殊機能を完了した後に必要になることがあるコードの読み取りとクリアが可能です。ホット機能は、選択した特殊機能のサブ機能で構成されます。

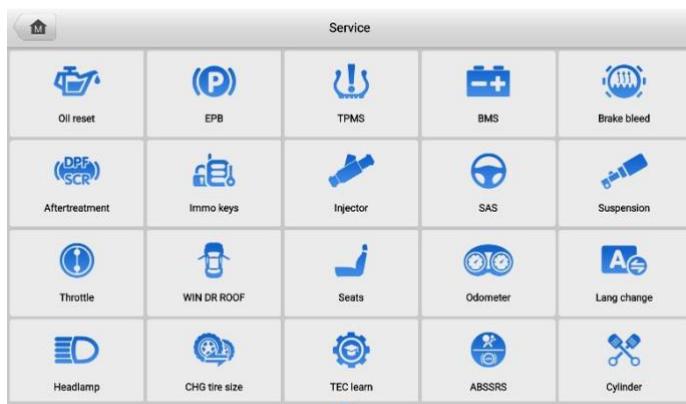


図 5-1 サービスメニュー

この章では、最も一般的に使用されるいくつかのサービスについて説明します。

5.1 オイルリセットサービス

エンジンオイル寿命システムのリセットを実行します。このシステムは、車両の運転状況と気候に応じて最適なオイル寿命交換間隔を計算します。オイル寿命リマインダ

ーは、オイルを交換するたびにリセットする必要があります。これにより、システムは次回のオイル交換時期を計算できます。

NOTE

1. オイル交換後は必ずエンジンオイル寿命を100% にリセットしてください。
 2. サービスインジケータをリセットする前に、必要な作業をすべて実行する必要があります。そうしないと、サービス値が不正確になり、関連する制御モジュールによって DTC が保存される可能性があります。
 3. 一部の車両では、スキャンツールでメンテナンスサイクルやサービス間隔などの追加のサービスライトをリセットできます。たとえば BMW 車両の場合、サービスリセットにはエンジンオイル、スパークプラグ、フロント/リアブレーキ、クーラント、粒子フィルター、ブレーキフルード、マイクロフィルター、車両検査、排気ガス検査、車両チェックが含まれます。
-

5.2 電動パーキングブレーキ(EPB)サービス

この機能は、電子ブレーキシステムを安全かつ効果的に維持するために、さまざまな用途に使用できます。用途には、ブレーキ制御システムの無効化と有効化、ブレーキ液制御の補助、ブレーキパッドの開閉、ディスクまたはパッドの交換後のブレーキの設定などがあります。

5.2.1 EPBの安全性

電動パーキングブレーキ(EPB)システムのメンテナンスは危険を伴う場合がありますので、サービス作業を開始する前に、以下のルールに留意してください。

- ✓ 作業を開始する前に、ブレーキシステムとその操作について十分理解していることを確認してください。
- ✓ ブレーキ システムのメンテナンス/診断作業を実行する前に、EPB制御システムを非アクティブにする必要がある場合があります。ツールメニューから実行できません。
- ✓ メンテナンス作業は、車両が静止し、平らな地面にあるときにのみ実行してください。
- ✓ メンテナンス作業が完了したら、EPB制御システムが再度アクティブになっています。

NOTE

ることを確認してください。

Autel は、電動パーキングブレーキ システムのメンテナンスから生じるいかなる事故や怪我についても一切責任を負いません。

5.3 タイヤ空気圧監視システム (TPMS) サービス

この機能を使用すると、車両のECUからタイヤセンサーIDをすばやく検索できるほか、タイヤセンサーの交換後にTPMSの交換およびリセット手順を実行できます。

5.4 バッテリー管理システム (BMS) サービス

バッテリー管理システム(BMS)を使用すると、ツールはバッテリーの充電状態を評価し、閉回路電流を監視し、バッテリー交換を登録し、車両の休止状態をアクティブ化し、診断ソケットを介してバッテリーを充電できます。

NOTE

1. この機能はすべての車両でサポートされているわけではありません。
2. BMSのサブ機能と実際のテスト画面は車両によって異なる場合があります。画面の指示に従って正しい選択を行ってください。

車両には、密閉型鉛蓄電池または吸収ガラスマット(AGM)バッテリーのいずれかが使用されています。鉛蓄電池には液体硫酸が含まれており、ひっくり返すとこぼれる可能性があります。AGMバッテリー(VRLA バッテリー、バルブ制御鉛蓄電池とも呼ばれます)にも硫酸が含まれていますが、酸は端子板間のガラスマットに含まれています。

交換用アフターマーケット バッテリーは、容量やタイプなど、既存のバッテリーと同じ仕様をすることをお勧めします。元のバッテリーを別のタイプのバッテリー(例: 鉛蓄電池をAGMバッテリーに交換)または容量(mAh)の異なるバッテリーに交換する場合、バッテリーのリセットに加えて、新しいタイプのバッテリーの再プログラミングが必要になることがあります。車両固有の追加情報については、車両のマニュアルを参照してください。

5.5 ディーゼル 粒子 フィルター (DPF) サービス

ディーゼル粒子フィルター(DPF)機能は、DPF 再生、DPFコンポーネント交換ティーチン、およびエンジンコントロールユニット交換後のDPFティーチンを管理します。

ECM は運転スタイルを監視し、再生を実行する適切な時間を選択します。アイドリング速度と低負荷で頻繁に運転される車は、高負荷と高速度でより多く運転される車よりも早く再生を試みます。再生が行われるには、長時間の高排気温度を得る必要があります。

再生が不可能な運転方法、つまり短距離の走行が頻繁な運転の場合、DPF ライトと「チェック エンジン」インジケータの表示に加えて、診断トラブル コードが最終的に登録されます。サービス再生は、診断ツールを使用してワークショップでリクエストできます。

ツールを使用して強制 DPF 再生を実行する前に、次の項目を確認してください：

- 燃料ランプが点灯していない。
- システム内に DPF関連の故障が保存されていない。
- 車両に指定されたエンジン オイルが使用されている。

❗ 重要

問題のある車両を診断し、緊急再生を実行する前に、完全な診断ログを取得し、関連する測定値ブロックを読み取ることが重要です。

🔍 NOTE

1. エンジン管理ライトが点灯しているか、EGRバルブに不具合がある場合、DPFは再生されません。
2. DPF を交換するとき、および燃料添加剤 Eolys を補充するときは、ECUを再調整する必要があります。
3. DPFサービスを実行するために車両を運転する必要がある場合は、その機能を実行するために2人が必要です。1人が車両を運転し、もう1人がツールの画面を監視します。運転しながらスキャンツールを監視することはしないでください。これは、自分の命だけでなく、他の車両や歩行者の命も危険となります。

5.6 イモビライザー (IMMO) サービス

イモビライザーは、正しいイグニッションキーまたは他のデバイスがない限り、自動車のエンジンが始動しないようにする盗難防止メカニズムです。このデバイスは、盗難者がホット ワイヤリングと呼ばれる方法で自動車を始動するのを防ぎます。ほとんどの新しい車両には、イモビライザーが標準装備されています。このシステムの重要な利点は、車の所有者が起動する必要がなく、自動的に作動することです。イモビライザーは、可聴アラームのみよりもはるかに効果的な盗難防止保護を提供すると考えられており、多くの自動車保険会社は、イモビライザーを装備した車両に低い料金を提供しています。

盗難防止デバイスであるイモビライザーは、自動車のエンジンを始動するために必要なシステムの1つ（通常は燃料供給またはイグニッション）を無効にします。これは、イグニッション キーのトランスポンダーとステアリングコラムの無線周波数リーダーと呼ばれるデバイス間の無線周波数識別によって実現されます。キーをイグニッションに差し込むと、トランスポンダーは固有の識別コードを含む信号をリーダーに送信し、リーダーはそれを車両コンピューター制御モジュールの受信機に中継します。コードが正しい場合、コンピューターは燃料供給システムとイグニッションシステムを作動させて車を始動させます。コードが間違っているか存在しない場合、コンピューターはシステムを無効にし、正しいキーをイグニッションに差し込むまで車を始動できなくなります。

IMMO サービスは、紛失した車両キーを無効にして、交換用キーフォブをプログラムできます。1つ以上の交換用キーフォブをプログラムできます。

5.7 ステアリングアングルセンサー (SAS) サービス

SASキャリブレーションでは、現在のステアリング ホイールの位置が直進位置として SAS EEPROM に永久保存されます。したがって、キャリブレーションの前に、前輪とステアリングホイールを正確に直進位置に設定する必要があります。さらに、VIN もインストルメントクラスターから読み取られ、SAS EEPROM に永久保存されます。キャリブレーションが正常に完了すると、SAS 障害メモリは自動的にクリアされます。

次の操作の後には必ずキャリブレーションを実行する必要があります。

- ステアリングホイール交換
- SASの交換
- SAS からコラムへのコネクタハブを開くことを伴うメンテナンス
- ステアリングリンケージ、ステアリングギア、またはその他の関連メカニズムのメンテナンスまたは修理作業
- ホイールアライメントまたはホイールトラックの調整
- SASまたはアセンブリ、またはステアリングシステムのいずれかの部分に損傷が

NOTE

発生した可能性がある事故修理。

1. Autelは、SASシステムの修理によって生じた事故や怪我については一切責任を負いません。車両から取得したDTCを解釈する際は、常にメーカーの修理推奨事項に従ってください。
 2. このマニュアルに示されているすべてのソフトウェア画面は例であり、実際のテスト画面はテスト車両によって異なる場合があります。メニュータイトルと画面上の指示に注意して、正しいオプションを選択してください。
 3. 手順を開始する前に、車両にESCボタンがあることを確認してください。ダッシュボードのボタンを探してください。
-

6 ADAS

先進運転支援システム(ADAS)は、受動的な警告または車両の能動的な制御によって運転者を支援し、より安全で、より意識的かつ正確に運転できるようにする一連の車両システムです。

カメラ、センサー、超音波、レーダー、LIDAR は、走行中または静止中の車両の位置、歩行者の位置、道路標識、走行車線と交差点の検出、道路(カーブ)、運転状況(視界不良または夜間の運転)などの運転環境データを取得するために使用されるシステムの一部であり、その情報を使用して車両に所定の動作を実行するように指示します。カメラ、センサー、および感知システムは通常、フロントおよびリアバンパー、フロントガラス、フロントグリル、サイドミラーおよびバックミラーに配置されています。Autel ADAS キャリブレーションツールは、包括的で正確な ADAS キャリブレーションを提供します。

1. ベンツ、BMW、アウディ、フォルクスワーゲン、ポルシェ、インフィニティ、レクサス、GM、フォード、ボルボ、トヨタ、日産、ホンダ、ヒョンデ、起亜など、多くの自動車メーカーをカバーしています。
2. アダプティブクルーズコントロール (ACC)、ナイトビジョンシステム (NVS)、車線逸脱警報 (LDW)、ブラインドスポット検出 (BSD)、アラウンドビューモニタリング (AVM)、後方衝突警報 (RCW)、ヘッドアップディスプレイ (HUD) など、複数の運転支援システムのキャリブレーションをサポートします。
3. グラフィック イラストとステップバイステップの手順を提供します。
4. 技術者がキャリブレーションを行うためのデモを提供します。

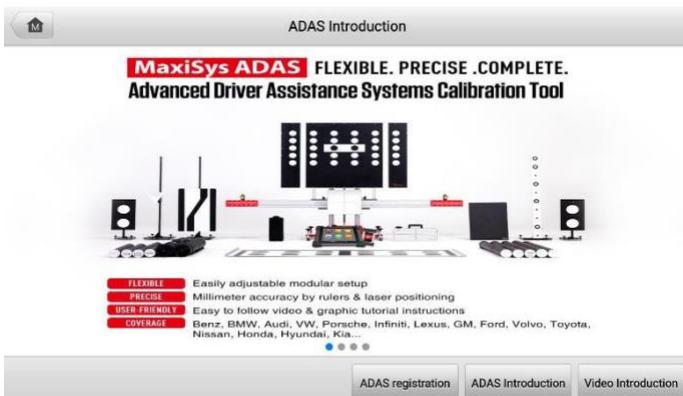


图 6-1 ADAS导入画面

7 データマネージャー

データマネージャーアプリケーションを使用すると、保存したファイルを保存、印刷、確認したり、ワークショップ情報や顧客情報レコードを管理したり、テスト車両履歴レコードを保存できます。データマネージャーアプリケーションを選択すると、ファイルシステムメニューが開きます。利用できる主な機能は9つあります。



図 7-1 データマネージャー 画面

以下の表では、データマネージャーアプリケーションの各機能ボタンについて簡単に説明します。

表 7-1 データマネージャーのボタン

ボタン	名前	説明
	車両履歴	診断履歴記録の確認
	ワークショップ 情報	ワークショップ情報の編集



顧客管理

新しい顧客情報の作成

ボタン	名前	説明
	イメージ	スクリーンショットの確認
	クラウドレポート	保存されたクラウドレポートの確認および共有
	PDF	保存されたPDFファイルレポートの確認
	データレビュー	記録されたデータの確認
	データロギング	車両の通信データとECU情報を確認 保存されたデータはインターネット経由でテクニカルセンターに報告・送信することができます。
	Apps	アプリケーションをアンインストール

7.1 車両履歴

車両情報や以前の診断セッションから取得した DTC など、テスト車両履歴の記録を保存します。テスト情報は要約され、読みやすい表形式で表示されます。車両履歴では、以前にテストした車両に直接アクセスすることもでき、自動または手動で車両を選択することなく、診断セッションを直接再開できます。

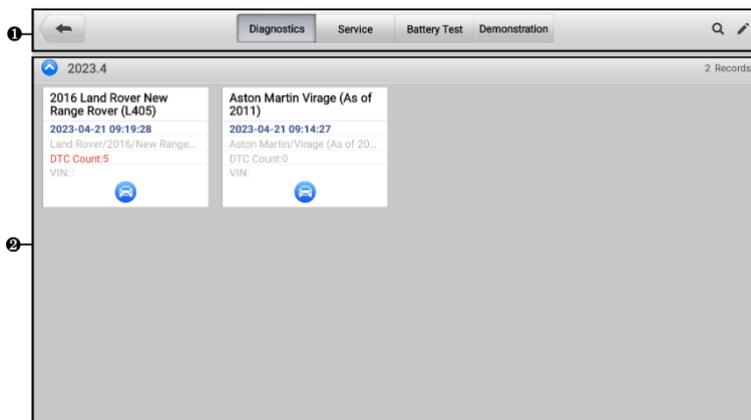


図 7-2 車両履歴画面

1. 上部のツールバーボタン — ナビゲーションとアプリケーションコントロール。
 2. メインセクション — すべての車両履歴を表示します。
- 記録された車両のテストセッションをアクティブ化するには
1. MaxiSysジョブメニューの**データマネージャー**をタップします。
 2. 車両履歴を選択して画面を開きます。関連するアプリケーションタブをタップしてテストレコードを選択します。例として、診断タブを選択します。
 3. 車両レコード項目のサムネイルの下部にある診断アイコンをタップします。
 4. 車両の診断画面が表示され、新しい診断セッションがアクティブになります。
 5. 車両のサムネイルを選択してレコードを開き、履歴テストレコードシートが表示されます。テスト車両の記録情報を確認し、右上隅の[診断]ボタンをタッ

NOTE

プします。

MaxiSysタブレットは、以前にテストした車両でテストセッションを再開するために、VCI デバイスとの安定した接続を確立する必要があります。

7.1.1 履歴テスト記録

履歴テスト記録は、車両の詳細なデータフォームで、一般的な車両情報、サービス記

録、顧客情報、および以前のテストセッションから取得された診断トラブル コードが含まれます。技術者のメモがある場合は、それも表示されます。

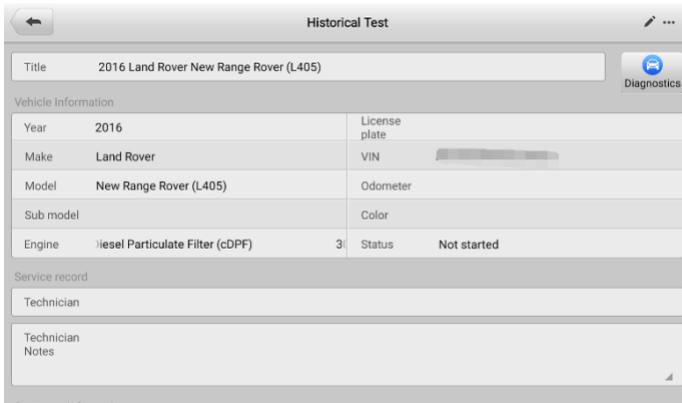


図 7-3 履歴テスト記録シート

➤ 履歴テスト記録を編集するには

1. MaxiSysジョブメニューの**データマネージャー**をタップします。
2. **車両履歴**を選択します。
3. メインセクションから特定の車両履歴記録のサムネイルを選択します。履歴テスト記録が表示されます。
4. **編集 (ペンアイコン)**をタップして編集を開始します。
5. 各項目をタップして情報を入力したり、ファイルや画像を添付したりします。

 **NOTE**

車両 VIN、ライセンス番号、および顧客アカウント情報は、デフォルトで関連付けられています。車両レコードは、この車両と顧客の識別情報を使用して自動的に関連付けられます。

6. 「顧客追加」をタップして、過去のテスト記録シートを既存の顧客アカウントに関連付けるか、テスト車両記録に関連付ける新しい関連アカウントを追加します。
7. 「終了」をタップして更新された記録を保存するか、「キャンセル」をタップして保存せずに終了します。

7.2 ワークショップ情報

ワークショップ情報フォームを使用すると、ショップ名、住所、電話番号、その他のコメントなどの詳細なワークショップ情報を編集、入力、保存できます。これらの情

報は、車両診断レポートやその他の関連テスト ファイルを印刷するときに、印刷されたドキュメントのヘッダーとして表示されます。

図 7-4 ワークショップ情報シート

➤ **ワークショップ情報を編集するには**

1. MaxiSysジョブメニューの**データマネージャー**をタップします。
2. **ワークショップ情報**を選択します。
3. 上部のツールバーで**編集ボタン**をタップします。
4. 各フィールドをタップして適切な情報を入力します。
5. 完了をタップして更新されたワークショップ情報レコードを保存するか、キャンセルをタップして保存せずに終了します。

7.3 顧客管理

顧客機能を使用すると、顧客アカウントを作成・編集できます。関連するテスト車両履歴レコードと相関するすべての顧客情報アカウントを保存および整理するのに役立ちます。

➤ **顧客管理を作成するには**

1. MaxiSysジョブメニューの**データマネージャー**をタップします。
2. **顧客管理**を選択します。
3. 顧客追加ボタンをタップします。空の情報フォームが表示されます。各フィ

🕒 **NOTE**

ールドをタップして適切な情報を入力します。

入力する必要がある項目は必須フィールドとして示されます。

4. 顧客によっては、サービスを受ける車両が複数ある場合があります。アカウントに新しい車両情報をいつでも追加できます。[新しい車両情報の追加] をタップして、車両情報を入力します。キャンセルするには、✕ ボタンをタップします。
5. アカウントを保存するには「完了」をタップし、保存せずに終了するには「キャンセル」をタップします。

➤ **顧客アカウントを編集するには**

1. MaxiSysジョブメニューの**データマネージャー**をタップします。
2. **顧客管理**を選択。
3. 対応する顧客アカウントを選択します。顧客情報レコードが表示されます。
4. 上部のツールバーの **編集アイコン**をタップして編集を開始します。
5. 入力フィールドをタップして情報を編集または修正し、更新された情報を入力します。
6. **[終了]** をタップして更新された情報を保存するか、**[キャンセル]** をタップして保存せずに終了します。

➤ **顧客アカウントを削除するには**

1. MaxiSysジョブメニューの**データマネージャー**をタップします。
2. **顧客管理**を選択。
3. 顧客アカウントの右側にある**削除アイコン**をタップします。メッセージが表示されます。
4. **[OK]** をタップしてコマンドを確認するとアカウントが削除されます。または、**[キャンセル]** をタップしてリクエストをキャンセルします。

7.4 イメージ

イメージは、キャプチャされたすべてのスクリーンショットを含む PNGデータベースです。

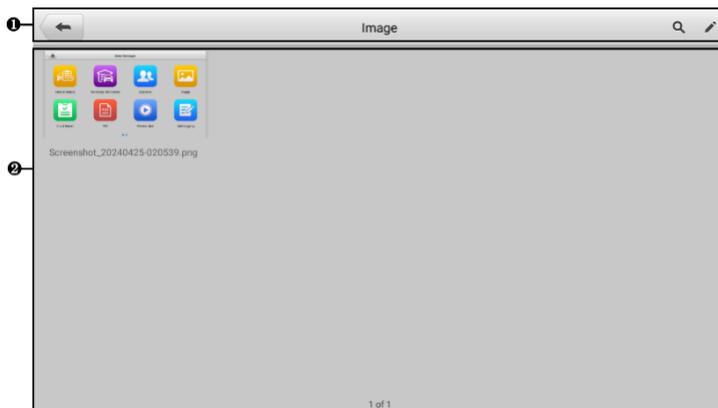


図 7-5 イメージ 画面

1. ツールバーボタン — 画像ファイルの編集、印刷、削除に使用します。詳細については、表 7-2 PNGデータベースツールバーボタンを参照してください。
2. メインセクション — 保存されている画像を表示します。

表 7-2 PNGデータベースツールバーボタン

ボタン	名前	説明
	戻る	前の画面に戻る
	検索	保存時間入力して画像を検索します
	編集	編集ツールバーが表示され、画像を選択、削除、印刷、または電子メールで送信できます
	キャンセル	編集ツールバーを閉じるか、ファイル検索をキャンセルします
	印刷	選択した画像を印刷します
	消去	選択した画像を削除します
	メール	選択した画像をメールで送信できます

➤ 画像を編集/削除するには

1. MaxiSysジョブメニューの**データマネージャー**をタップします。
2. **画像**を選択して、PNGデータベースにアクセスします。
3. ウィンドウの右上隅にある **[編集]** をタップします。編集画面が表示されます。
4. 画像の右下隅にある **チェックボックス** をタップして、編集する画像を選択します。
5. **[削除]** アイコンをタップして、選択した画像を削除するか、すべての画像を

削除します。**[印刷]** アイコンをタップして、選択した画像を印刷します。**[電子メール]** アイコンをタップして、選択した画像を電子メールに送信します。

7.5 クラウドレポート

保存されたレポートが表示され、安定したネットワーク接続が確立されるとAutelクラウドプラットフォームに転送され、他のユーザーと表示したり共有したりできるようになります。

7.6 PDF

ローカル表示用に指定されたPDFファイルが表示されます。PDFデータベースに入った後、PDFファイルを選択して、保存されている情報を表示します。

このセクションでは、ファイルの表示と編集に標準のAdobe Readerアプリケーションを使用します。詳細な手順については、関連するAdobe Readerマニュアルを参照してください。

7.7 データレビュー

ライブデータストリームの記録されたデータフレームを再生できます。

[データの確認]メイン画面で、再生する記録ファイルを選択します。

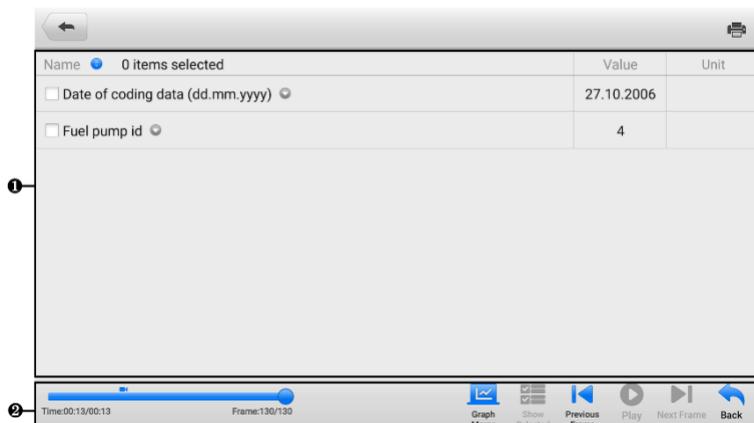


図 7-6 データレビュー画面

1. メインセクション — 記録されたデータフレームを表示
2. ナビゲーション ツールバー — データの再生を操作できます。
ナビゲーションツールバーのボタンを使用して、記録データをフレームごとに再生します。
データの再生を終了するには、**[戻る]** をタップします。

7.8 データロギング

サポートプラットフォームを直接起動して、診断システム上のすべてのフィードバックまたはフィードバックなしのデータ ロギングのすべてのレコードを表示できます。詳細については、「データロギング」を参照してください。

7.9 Apps

MaxiSys診断システムにインストールされているソフトウェアアプリケーションを管理できます。このセクションを選択すると管理画面が開き、利用可能なすべての車両診断アプリケーションを確認できます。

車両メーカーのアイコンをタップして、削除する車両ソフトウェアを選択します。選択した項目の右上隅に青いマークが表示されます。上部のツールバーの **[削除]** ボタンをタップして、システム データベースからソフトウェアを削除します。

8 セッティング

セッティングにアクセスして、デフォルト設定を調整し、MaxiSysシステムに関する情報を表示します。MaxiSysシステム設定では、次のオプションが使用できます。

- 単位
- 言語
- 印刷設定
- レポート設定
- プッシュ通知
- オートアップデート
- ADAS設定
- カーオーダー
- バッテリーテスト
- システム設定
- 備考

8.1 単位

診断システムの測定単位の変更ができます。

➤ 単位設定を変更するには

1. MaxiSysジョブメニューの**セッティング**をタップします。
2. 左側列の**単位**をタップします。
3. 適切な測定単位を選択します。選択した単位の右側にチェックマークが表示されます。
4. 左上隅の**ホームボタン**をタップして MaxiSysジョブメニューに戻るか、システム セットアップの別の設定オプションを選択します。

8.2 言語

MaxiSysシステムの表示言語を調整できます。

➤ **言語設定を変更するには**

1. MaxiSysジョブメニューの**セッティング**をタップします。
2. 左側列の**言語**をタップします。
3. 適切な**言語**を選択します。選択した言語の右側にチェックマークが表示されます。
4. 左上隅のホームボタンをタップして MaxiSysジョブメニューに戻るか、システムセットアップの別の設定オプションを選択します。

8.3 印刷設定

ネットワーク経由でタブレットの印刷設定ができます。

➤ **印刷設定を変更するには**

1. MaxiSysジョブメニューの**セッティング**をタップします。
2. 左側列の**印刷設定**をタップします。
3. 「PC-Link経由での印刷」または「Wi-Fi経由での印刷」をタップして印刷機能を有効にします。これにより、デバイスはWi-Fiまたはイーサネット接続を介して PC 経由でプリンターにファイルを送信できるようになります。
4. 左上隅のホームボタンをタップして MaxiSysジョブメニューに戻るか、システムセットアップの別の設定オプションを選択します。

8.3.1 印刷オペレーション

➤ **MaxiSysプリンタードライバーをインストールするには**

1. www.autel.com > サポート > ダウンロード > Autel アップデート ツールから Maxi PC Suite をダウンロードし、Windows ベースの PC にインストールします。
2. **Setup.exe** をダブルクリックします。
3. インストール言語を選択すると、ウィザードがすぐに読み込まれます。
4. 画面の指示に従い、**[次へ]** をクリックして続行します。
5. **[インストール]** をクリックすると、プリンタードライバープログラムがコンピューターにインストールされます。
6. **[完了]** をクリックしてインストールを完了します。

NOTE

MaxiSysプリンターはインストール後に自動的に実行されます。PC、プリンター、タブレットは同じネットワークに接続されている必要があります。

MaxiSysタブレットからファイルを受信し、PC経由で印刷を実行する方法について説明します。

NOTE

1. 印刷する前に、タブレットがWi-Fi またはLAN 経由で PC と同じネットワークに接続されていることを確認します。
 2. 印刷サービスプログラムがインストールされたPCがプリンターに接続されていることを確認します。
-

➤ パソコン経由で印刷する

1. パソコンでPC Linkプログラムを実行します。
 2. MaxiSysプリンタータブを選択します。
 3. タブレットの上部ツールバーにある**印刷**ボタンをタップします。テストドキュメントが PC に送信されます。
 - ◇ MaxiSysプリンターの自動印刷オプションが選択されている場合、MaxiSysプリンターは受信したドキュメントを自動的に印刷します。
 - ◇ 自動印刷オプションが選択されていない場合は、[PDFファイルを開く]
-

NOTE

をクリックしてすべての一時ファイルを表示します。[印刷] をタップします。

プリンターが正常に動作していることを確認するには、PC Link プログラムの [テスト印刷] をクリックしてテストします。

8.4 レポート設定

「スキャンレポート」と「レポートをクラウドへアップロードする」の2つのオプションが利用できます。

- スキャンレポート

ON/OFF ボタンを切り替えて、プレスキャン機能とポストスキャン機能を有効/無効にします。これにより、ユーザーはプレスキャンとポストスキャンの間の変更

を比較できます。プレスキャン機能とポストスキャン機能の詳細については、「レポート設定」を参照してください。

- レポートをクラウドへアップロードする

車両の診断情報を車両履歴に自動的に同期し、ユーザーがアップロードするための診断レポートを作成します。オン/オフボタンをタップして、レポートのクラウドへのアップロード機能を有効/無効にします。機能が有効な場合はボタンが青く表示され、機能が無効な場合は灰色で表示されますレポートをアップロードしている間は、タブレットがネットワークに接続されていることを確認してください。

8.5 プッシュ通知

通知を管理できます。通知設定オプションはデフォルトでオンになっており、ユーザーがオフにすることはできません。そのため、システムセキュリティ警告などの特定のシステム通知がブロックされることはありません。

➤ その他の通知を管理する

1. MaxiSysジョブメニューの**セッティング**をタップします。
2. 左側列の**プッシュ通知**をタップします。
3. 右側のボタンをタップしてドロップダウンリストを開きます。
4. すべての通知を有効にします、すべての通知を有効にします、1週間に3回以内に通知します、1週間に1回まで通知します、すべての通知を無効にしますの4つのオプションがあります。必要なオプションを選択します。
5. 左上隅のホームボタンをタップして MaxiSysジョブメニューに戻るか、シス

🕒 NOTE

テム セットアップの別の設定オプションを選択します。

- 通知は画面に表示されます。画面を上からスライドして受信したメッセージを確認します。メッセージリストが複数の画面にまたがっている場合は、リストを上下にスライドして表示します。
 - 特定のメッセージをタップすると、対応するアプリケーションが起動します。たとえば、更新通知をタップすると、更新アプリケーションが起動します。
-

8.6 オートアップデート

OS、MaxiSysシステム、車両カバレッジソフトウェアを自動的に更新できます。それぞれ、指定した時間に自動的に更新されるように設定できます。オン/オフ ボタンをタップして、希望する自動更新時間を有効/無効にします。

➤ オートアップデートまたは車両のアップデートを設定する

1. MaxiSysジョブメニューの**セッティング**をタップします。
2. 左列の**オートアップデート**をタップします。画面の右側に3つの自動更新項目が表示されます。
3. スケジュールする更新タイプを選択します。ボタンをオンに切り替えます。

4. 時間をタップして、更新する時刻を設定します。更新時刻が設定され、デバイスがネットワークに接続されている場合、選択したソフトウェアは設定された時刻に自動的に更新されます。

8.7 ADAS設定

➤ **MaxiSys ADASキャリブレーションを有効にするには**

1. 登録するMaxiSysタブレットに利用可能なアップデートがあることを確認します。
2. MaxiSysジョブメニューの**セッティング**をタップします。
3. **ADAS設定**をタップします。
4. 登録するADASフレームを選択します。
5. ADASライセンスカードの検証コードを入力します。
6. 登録が完了すると、システムがリセットされ、ジョブメニューが表示されます。

8.8 カーオーダー

車両をアルファベット順または使用頻度順に並べ替えることができます。

➤ **カーオーダーを設定するには**

1. MaxiSysジョブメニューの**セッティング**をタップします。
2. 左列の**カーオーダー**をタップします。
3. 必要な並べ替えタイプを選択します。選択した項目の右側にチェックマークが表示されます。
4. 左上隅の**ホームボタン**をタップして MaxiSysジョブメニューに戻るか、システムセットアップの別の設定オプションを選択します。

8.9 オートVID設定

自動車両VIN読み取り機能を有効/無効にすることができます。この機能がアクティブの場合、タブレットは、VCIが車両に接続された後、有効にした通信方法を介して車両VINを読み取ります。

8.10 システム設定

Android システム設定インターフェースに直接アクセスして、Android システム プラットフォームのさまざまなシステム設定を調整できます。ワイヤレスとネットワークの設定、サウンドやディスプレイなどのさまざまなデバイス設定、システム セキュリティ設定について、また Android システムに関する関連情報を確認できます。詳細については、Android のドキュメントを参照してください。

8.11 備考

「バージョン情報」機能は、製品名、バージョン、ハードウェア、シリアル番号など、MaxiSys 診断デバイスの情報を提供します。

➤ MaxiSys製品情報を確認するには

1. MaxiSysジョブメニューでセッティングをタップします。
2. 左側列にある**備考**をタップします。右側に製品情報画面が表示されます。
3. 左上隅の**ホームボタン**をタップして MaxiSysジョブメニューに戻るか、システム セットアップの別の設定オプションを選択します。

9 VCIマネージャー

タブレットをMaxiVCI V200またはバッテリーテスターとペアリングし、通信状態を確認し、VCI またはバッテリーテスターのファームウェアを更新します。

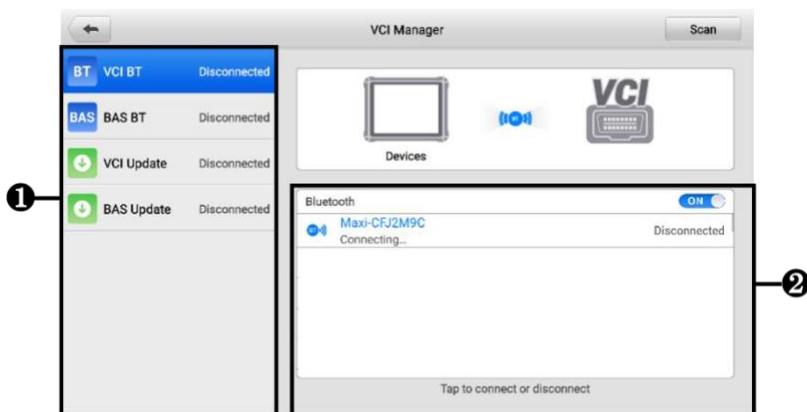


図 9-1 VCI マネージャー 画面

1. **接続モード**: 4つの接続モードが利用可能です。各モードの隣に接続ステータスが表示されます。
 - VCIブルートゥース — VCIがBluetooth経由でデバイスとペアリングされている場合、接続ステータスは「**接続**」と表示されます。それ以外の場合は、「**切断**」と表示されます。
 - BASブルートゥース — Bluetooth経由でバッテリーテスターとペアリングすると、接続ステータスが「**接続**」と表示されます。それ以外の場合は、「**切断**」と表示されます。
 - VCIアップデート — VCIを診断タブレットに接続し、タブレットを介してVCIファームウェアを更新します。
 - BASアップデート — バッテリーテスターを診断タブレットに接続し、タブレットを介してバッテリーテスターのファームウェアを更新します。
2. **セッティング**: ワイヤレスペアリングを管理したり、ネットワーク接続を設定した

りできます。オン/オフボタンをオンに切り替えます。ペアリング可能なデバイスが表示されます。必要なものをタップしてペアリングを開始します。

9.1 VCIブルートゥースペアリング

VCIブルートゥースペアリングは、ワイヤレス接続の基本的な方法です。VCIデバイスは、同期処理中に電源がオンになるように、車両または利用可能な電源に接続する必要があります。タブレットのバッテリーが充電されているか、AC/DC電源に接続されていることを確認してください。

➤ VCIデバイスをタブレットがとペアリングする

1. タブレットの電源を入れます。
2. MaxiVCI V200を車両のDLCに挿入します。
3. MaxiSysジョブメニューの**VCIマネージャー**をタップします。
4. 左側列にある**VCIブルートゥース**を選択します。
5. ブルートゥースのトグルボタンをスワイプして**オン**にします。右上隅の**スキャン**をタップします。デバイスは、使用可能なペアリングユニットの検索を開始します。
6. 使用する VCIタイプによっては、デバイス名に「**Maxi-**」の末尾にシリアル番号が付加されて表示されます。ペアリングする適切なデバイスを選択します。
7. ペアリングに成功すると、接続ステータスが「**接続**」と表示されます。
8. 数秒待つと、画面下部のナビゲーションバーのVCIショートカットに緑色のBTアイコンが表示され、タブレットがVCIデバイスに接続されていることを示します。
9. 接続されているデバイスをもう一度タップして、デバイスを切断します。
10. 左上の「**ホーム**」ボタンをタップして、MaxiSysジョブメニューに戻ります。

🔍 NOTE

VCIデバイスは一度に1台のタブレットとのみペアリングでき、一度ペアリングすると、そのデバイスは他のユニットでは検出できなくなります。

9.2 BASブルートゥースペアリング

BT506バッテリーテスターデバイスは、Bluetooth経由でタブレットに接続できます。使用する前に、BT506バッテリーテスターが十分に充電されていること、または外部

電源に接続されていることを確認してください。

➤ **バッテリーテスターをタブレットとペアリングするには**

1. タブレットとバッテリーテスターの電源を入れます。
2. MaxiSysジョブメニューの**VCIマネージャー**をタップします。
3. 左側列にある**BASブルートゥース**を選択します。
4. BASブルートゥースのトグルボタンをスワイプしてオンにします。右上隅の**スキャン**をタップします。デバイスは、使用可能なペアリングユニットの検索を開始します。
5. 使用するバッテリーテスターの種類によっては、デバイス名に「**Maxi-**」の末尾にシリアル番号が付加されて表示されます。ペアリングする適切なデバイスを選択します。
6. ペアリングに成功すると、接続ステータスが「**接続**」と表示されます。

9.3 VCIアップデート

接続されたVCIデバイスの最新のアップデートを提供します。VCIファームウェアを更新する前に、タブレットのネットワーク接続が安定していることを確認し、アップグレード中はVCIアップデートページを離れないようにしてください。

➤ **VCIファームウェアを更新するには**

1. タブレットの電源を入れます。
2. ブルートゥースまたはUSBケーブルを使用して、VCIデバイスをタブレットに接続します。
3. MaxiSysジョブメニューの**VCIマネージャー**をタップします。
4. 左側列にある**VCIアップデート**を選択します。
5. インストールされているバージョンが最新の場合は、ソフトウェアが最新であることを通知する画面が表示されます。そうでない場合は、現在のバージョンと最新バージョンが画面に表示されます。利用可能な場合は、**[今すぐ更新]**をタップしてVCIファームウェアを更新します。

9.4 BASアップデート

バッテリーテスターのファームウェアを更新する前に、ネットワーク接続が安定していることを確認してください。

➤ **バッテリーテスターのファームウェアを更新するには**

1. タブレットとバッテリーテスターの電源を入れます。
2. USBケーブルを使用して、バッテリーテスターをタブレットに接続します。
3. MaxiSysジョブメニューの**VCIマネージャー**をタップします。
4. 左側列にある**BASアップデート**を選択します。
5. インストールされているバージョンが最新の場合は、ソフトウェアが最新であることを通知する画面が表示されます。そうでない場合は、現在のバージョンと最新バージョンが画面に表示されます。[今すぐ更新] をタップして、BAS ファームウェアが利用可能な場合は更新します。

10 サポート

AutelのオンラインサービスベースステーションとMaxiSys タブレットを同期するサポートプラットフォームを起動します。Autel のサービスチャネルとオンラインコミュニティに接続されたサポートアプリケーションは、問題解決のための最速の方法を提供し、ヘルプ リクエストを送信して直接サービスとサポートを受けることができます。

10.1 サポート画面レイアウト

サポートアプリケーションインターフェイスは、上部のツールバーのホームボタンでナビゲートします。サポート画面のメインセクションは2つのセクションに分かれています。左側の狭い列がメインメニューです。メインメニューから1つの主題を選択すると、右側に対応する機能画面が表示されます。

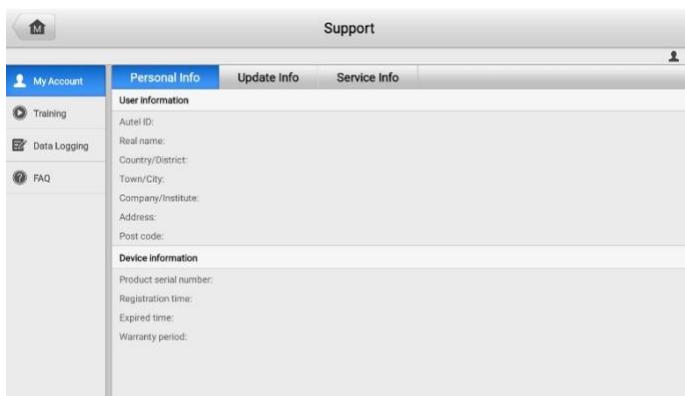


図 10-1 サポート画面

10.2 My Account

My Account画面には、個人情報、更新情報、サービス情報など、オンライン登録アカウントと同期されたユーザーと製品の包括的な情報が表示されます。

10.2.1 Personal Info

ユーザー情報とデバイス情報は両方とも個人情報セクションに含まれています。

- ユーザー情報 — Autel ID、名前、住所、その他の連絡先情報など、登録済みのオンライン Autel アカウントの詳細情報を表示します。
- デバイス情報 — 製品のシリアル番号、登録時間、有効期限、保証期間など、登録済みの製品情報を表示します。

10.2.2 アップデート情報

製品のシリアル番号、ソフトウェアのバージョンまたは名前、更新時間など、製品のソフトウェア更新履歴の詳細なリストが表示されます。

10.2.3 サービス情報

デバイスのサービス履歴情報の詳細な記録リストが表示されます。デバイスが修理のために Autel に返送されるたびに、デバイスのシリアル番号と、障害の種類、変更されたコンポーネント、システムの再インストールなどのその他の情報が記録され、関連するオンライン製品アカウントに更新され、サービス情報セクションに同期されません。

10.3 Training

Autelのオンラインビデオアカウントへのクイックリンクが用意されています。言語別にビデオチャンネルを選択すると、製品の使用テクニックや車両診断の実践などのトピックに関する利用可能なすべての Autelオンラインチュートリアル ビデオが表示されます。

10.4 データロギング

診断システム上のすべてのフィードバック (送信済み)、フィードバックなし (送信されていないが保存済み)、または履歴 (最新の20件のテストレコードまで) のデータロギングの記録が保存されます。サポート担当者は、サポートプラットフォームを通じて送信されたレポートを受信して処理します。解決策はできるだけ早く返送されます。問

題が解決するまで、サポートプラットフォームとのやり取りを続けることができます

。

➤ **データロギングセッションで返信するには**

1. フィードバック タグをタップして、送信されたデータ ログのリストを表示します。
2. 特定の項目を選択して、処理の進行状況の最新の更新を表示します。
3. 画面下部の入力フィールドをタップして返信を入力するか、オーディオボタンをタップして音声メッセージを録音するか、カメラボタンをタップしてスクリーンショットを撮ります。
4. 送信をタップして、メッセージを Autel サポートに送信します。

10.5 FAQ

Autelのオンラインメンバーアカウントの使用、ショッピングおよび支払い手順に関してよく寄せられるすべての質問とその回答を包括的に参照できます。

- Account — Autelのオンラインユーザーアカウントの使用に関する質問と回答を表示します。
- Shopping — オンライン製品の購入方法や手順に関する質問と回答を表示します。
。
- Payment — オンライン製品の支払方法や手順に関する質問と回答を表示します。

11 アップデート

最新バージョンのソフトウェアをダウンロードします。アップデートにより、通常、新しいテスト、新しいモデル カバレッジ、または新しいアプリケーションや強化されたアプリケーションの追加によって、MaxiSysアプリケーションの機能が向上します。タブレットは、ネットワークに接続されているときに、すべての MaxiSys ソフトウェアの利用可能なアップデートを自動的に検索します。見つかったアップデートはすべて、デバイスにダウンロードしてインストールできます。

➤ ソフトウェアを更新するには

1. タブレットの電源を入れ、電源に接続され、安定したネットワーク接続があることを確認します。
2. MaxiSysジョブメニューの**アップデート**をタップします。更新画面が表示されます。
3. アップデート画面で、**取得**ボタンをタップして特定の項目を更新するか、**すべて更新** ボタンをタップして利用可能なすべての項目を更新します。
4. [詳細] をタップして、利用可能なすべての更新の詳細を表示します。**取得** または **すべて更新** ボタンをタップして更新することもできます。
5. アップデート中に、更新プロセスを一時停止するには、 アイコンをタップします。 アイコンをタップして更新を再開すると、一時停止した時点からプロセスが続行されます。
6. アップデートプロセスが完了すると、ソフトウェアが自動的にインストール

NOTE

されます。新しいバージョンが古いバージョンに置き換わります。

アカウント管理については、**会員センター** タブに進んでください。

12 バッテリーテスト

MaxiBAS BT506バッテリーテスターを MaxiSysタブレットとバッテリーに接続して、車載バッテリーテストと車外バッテリーテストを実行できます。BT506バッテリーテスターを使用すると、技術者は車両のバッテリーと電気システムの健全性状態を確認できます。

NOTE

BT506バッテリーテスターは、別途購入する必要があります。



図 12-1 バッテリーテスト 画面

12.1 MaxiBAS BT506 バッテリーテスター

12.1.1 機能説明

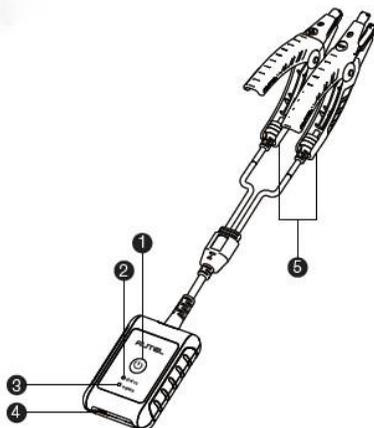


図 12-2 MaxiBAS BT506 バッテリーテスター

1. 電源ボタン
2. ステータスLED
3. 電源LED
4. USBポート
5. バッテリークランプケーブル

表 12-1 LED 説明

LED	色	説明
ステータス	緑色 点滅	テスターは、USBケーブル経由で通信
	青色 点滅	テスターは、ブルートゥース経由で通信

LED	赤色 点滅	バッテリーランプが間違ったバッテリー端子に接続されています
------------	-------	-------------------------------

LED	色	説明
電源LED	緑色	テスターの電源がオン、バッテリーは十分に充電されています。
	緑色 点滅	テスターは充電中。（バッテリーが完全に充電されると緑色に点灯になります。）
	赤色	ブートモード
	赤色 点滅	バッテリーレベルは低くなっているので、充電して下さい。

12.1.2 電源

MaxiBAS BT506バッテリーテスターは、次の電源から電力を供給できます：

- 内部バッテリーパック
- AC/DC 電源

❗ 重要

温度が、0°C以下または45°C以上の場合は、テスターの充電をしないで下さい。

12.1.2.1 内部バッテリーパック

MaxiBAS BT506バッテリーテスターは、内部の充電式バッテリーで電源を供給できます。

12.1.2.2 AC/DC 電源 — 電源アダプターの使用

MaxiBAS BT506バッテリーテスターは、AC/DC 電源アダプターを使用してコンセントから電源を供給できます。AC/DC電源は、内部バッテリーパックの充電にも使用されます。

12.1.3 技術仕様

表 12-2 技術仕様

アイテム	説明
接続性	<ul style="list-style-type: none"> ● USB 2.0、タイプ C ● ブルートゥース 4.2

入力電圧	5V DC
動作電流	< 150mA DC12V
内部 バッテリー	3.7 800 ボルト mAh リチウムイオン ポリマー電池
CCA 範囲	100 ~ 2000A
電圧 範囲	1.5 ~ 16V
動作温度	- 10 ° C ~ 50 ° C
保管温度	- 20 ° C ~ 60 ° C
寸法 (L x W x H)	107 mm x 75 mm x 26 mm (クランプケーブルは含みません)
重さ	320 g

12.2 テスト準備

12.2.1 バッテリーの検査

テストを開始する前に、バッテリーを検査・確認して下さい：

- ひび割れ、曲がり、または漏れ。これらの欠陥が見つかった場合は、バッテリーを交換してください。
- ケーブルや接続部の腐食、緩み、または損傷。必要に応じて修理または交換してください。
- バッテリー端子の腐食、ケース上部の汚れている場合は、ワイヤーブラシと水と重曹の混合液を使用して、ケースと端子を清掃してください。

12.2.2 バッテリーテスターを接続する

➤ MaxiSysタブレットとペアリングする

1. MaxiSys タブレットと BT506 バッテリーテスターの両方をオンにします。開始する前に、ユニットが十分に充電されていることを確認してください。
2. VCIマネージャー > BASブルートゥース をタップして、タブレットでブルートゥース

ースを有効にします。右上隅の**スキャン**をタップします。デバイスは、ペアリング可能なユニットの検索を開始します。

3. バッテリーテスターの種類によっては、デバイス名にシリアル番号が付いた「**Maxi-**」が表示されます。ペアリングする適切なデバイスを選択します。
4. ペアリングに成功すると、接続ステータスが「**接続**」になります。

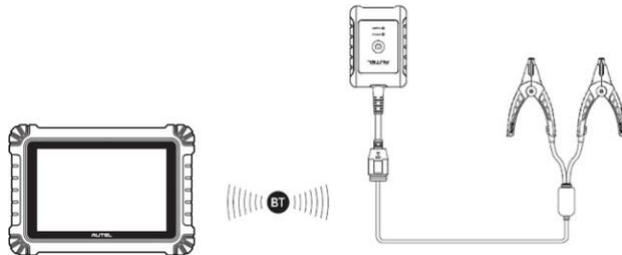
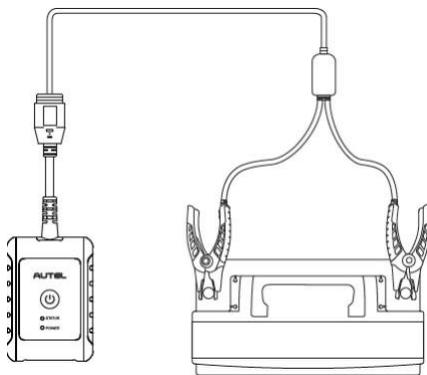


図 12-3 バッテリー テスター 接続 例1

➤ **バッテリーに接続するには**

1. 赤いクランプをバッテリーのプラス (+)端子に接続。



2. 黒いクランプをバッテリーのマイナス (-)端子に接続。

図 12-4 バッテリー テスター接続 例2

12.3 車載 テスト

車載テストは、車両に搭載されているバッテリーをテストするために使用されます。車載テストには、バッテリーテスト、スターターテスト、およびオルタネーターテストが

含まれます。これらのテストは、バッテリー、スターター、およびオルタネーターの状態を判断するのに役立ちます。

! 重要

ホーム画面で初めて機能にアクセスすると、免責事項が表示されます。エンドユーザー契約を読み、「同意する」をタップして続行してください。「拒否する」をタップすると、機能を正しく使用できなくなります。

バッテリーをテストする前に、バッテリー テスターが Bluetooth 経由でタブレットとペアリングされ、バッテリーに正しく接続されていることを確認してください。

➤ 車載テストを開始するには

1. MaxiSysジョブメニューの**バッテリーテスト**をタップします。**車載テスト**を選択します。
2. 左側列にある**車両情報**を選択します。VINが入力されていることを確認します。
3. 電圧、タイプ、規格、容量などのバッテリー情報を確認します。**[次へ]**をタップして、車載テスト機能を続行します。

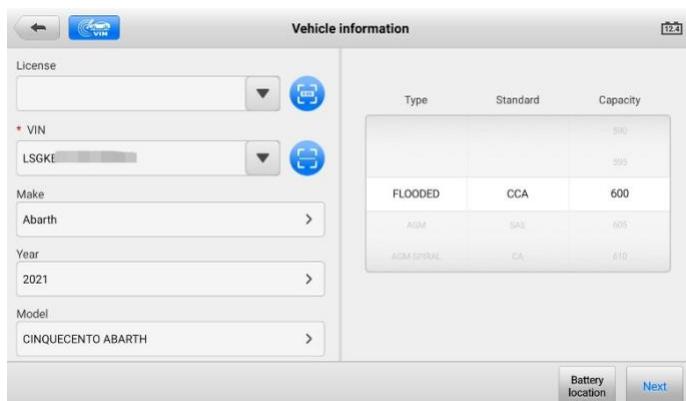


図 12-5 バッテリー 情報画面

NOTE

設定アプリケーションのバッテリーテストオプションを使用すると、VIN 情報の入力要件を変更できます。設定を有効にすると、VIN の入力は必須ではなくなります。

機能にアクセスするときに表示されるボタンのリストは、以下の表を参照してください。

表 12-3 トップツールバーボタン

ボタン	名前	説明
-----	----	----

	バッテリー接続	アイコンの値は、テストされたバッテリーのリアルタイムの電圧を示します。バッテリーテストでは、バッテリーが良好な場合はボタンが緑色に変わり、そうでない場合は赤色に変わります。
---	----------------	--

ボタン	名前	説明
	次へ	次に進む
	ホーム	バッテリーテストのメイン画面に戻る
	戻る	前の画面に戻る
	Exit	ジョブメニューに戻る

12.3.1 バッテリーテスト

1. 画面の指示に従います。必要なタスクがすべて完了したら、ボックスにチェックを入れ、「テストの開始」をタップします。

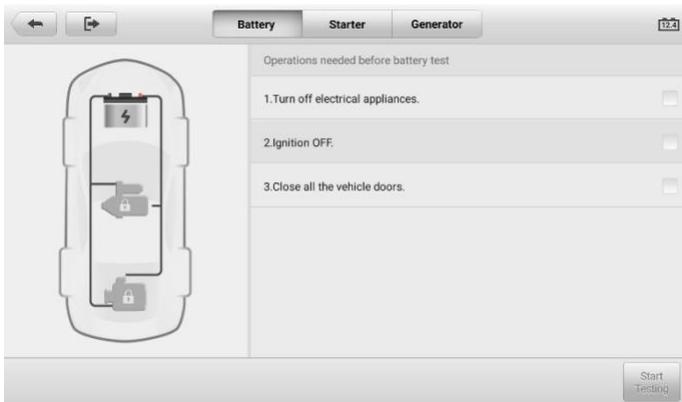


図 12-6 バッテリー 画面

2. テストが完了するまで待ちます。テスト結果がツールに表示されます。

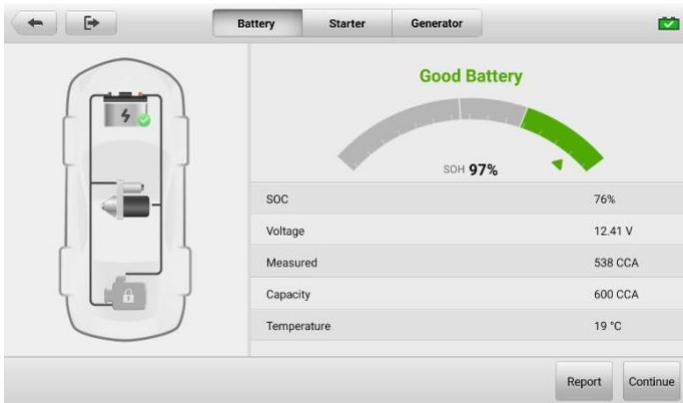


図 12-7 バッテリーテスト 結果画面

バッテリーテスト結果には、色分けされた結果の概要とテストデータのリストが表示。

表 12-4 テスト結果

結果	説明
良好	バッテリーは良好
良好&再充電	バッテリーは良好、充電が不十分なのでバッテリーを充電してください
充電 再テスト	バッテリーの状態を確認するには充電が必要です
バッテリーの状態が良くありません	バッテリーを交換してください
バッテリーを交換してください	バッテリーを交換してください

🔍 NOTE

スターターとオルタネーターテストに進む前に、必ずバッテリーのテストを完了してください。

12.3.2 スターターテスト

画面の指示に従ってテストを完了します。エンジンを始動し、アイドリング状態にします。テスト結果は次のように表示されます。

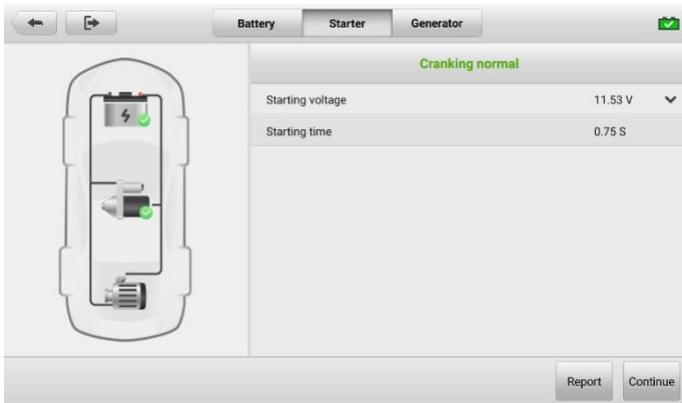


図 12-8 スターターテスト結果画面

表 12-5 スターターテスト結果

結果	説明
クランキング正常	スターターは正常です
電流低い	瞬間放電容量が低いです
電圧低い	バッテリーの蓄電容量が低いです
始動していない	スターターが始動検出されていません

12.3.3 オルタネーターテスト

画面の指示に従ってテストを完了します。テスト結果は次のように表示されます。

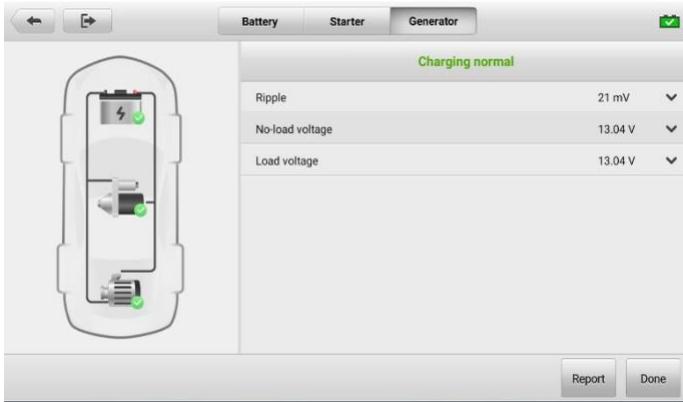


図 12-9 オルタネーターテスト 結果画面

表 12-6 オルタネーターテスト 結果

結果	説明
充電正常	オルタネーターは正常
出力が低い	<ul style="list-style-type: none"> ● オルタネーターのベルト緩い ● ケーブルが緩んでいるか腐食
出力が高い	<ul style="list-style-type: none"> ● オルタネーターの接続不良 ● ダイオードの故障、交換が必要
リップルが大きい	ダイオードが故障
出力なし	<ul style="list-style-type: none"> ● ケーブルが緩んでいる ● バッテリーの負荷容量が十分であるため、充電されていない ● オルタネーターまたはダイオードの故障、交換が必要

12.4 車外テスト

車外テストは、車両に接続されていないバッテリーの状態をテストするために使用されます。この機能は、バッテリーの健康状態のみを確認することを目的としています

o

12.4.1 テスト手順

➤ 車外テストを始めるには

1. テスターのクランプをバッテリー端子に接続します。
2. MaxiSysジョブメニューの**バッテリーテスト**をタップします。**車外テスト**を選択します。
3. 適切なバッテリー タイプ、定格規格、CCA 値を選択します。[テストの開始]をタップしてテストを開始します。

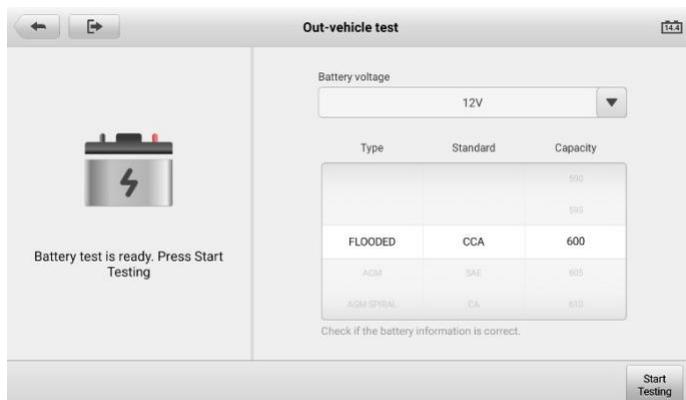


図 12-10 車外テスト 画面

4. 数秒以内にテスト結果が表示されます。

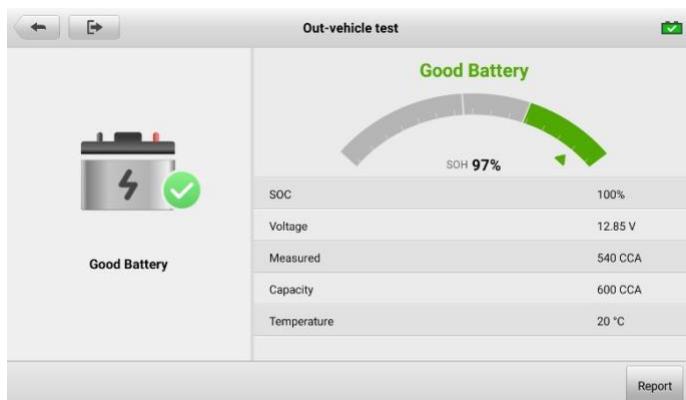


図 12-11 車外テスト結果 画面

12.4.2 テスト結果

表 12-7 車外テスト 結果

結果	説明
良好	バッテリーは良好
良好&再充電	バッテリー は良好、充電が不十分なのでバッテリーを充電してください
充電 再テスト	バッテリーの状態を確認するには充電が必要です
バッテリー交換	バッテリーを交換してください
バッテリーの状態が良くありません	バッテリーを交換してください

13 ハンドヘルド傾斜計

ハンドヘルド傾斜計をMaxiSysタブレットに接続し、ハンドヘルド傾斜計アプリケーションを開くと、メルセデス・ベンツ車の車高を正確に測定できます。これは、ホイールアライメント手順中にホイールのキャンバー、カスター、トーの値を調整するためのデータの基礎となります。

➤ メルセデス・ベンツ車の車高を測定するには

1. 付属のUSBケーブルを使用して、ハンドヘルド傾斜計をMaxiSysタブレットのUSBポートへ接続します。

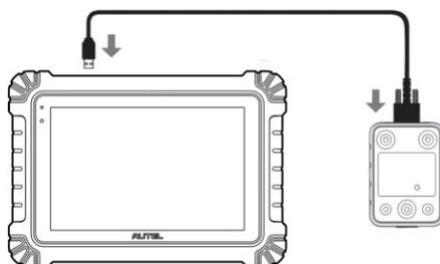


図 13-1 MaxiSysタブレットとハンドヘルド傾斜計の接続

2. MaxiSysジョブメニューの**ハンドヘルド傾斜計**をタップして、車両シリーズ選択画面を開きます。

Ride Height Measurement			
Series			
A (168)	A (169)	A (176)	A (177)
AMG GT (190)	B (242, 246)	B (245)	B (247)
C (203)	C (204)	C (205)	C (206)
CL (215)	CL (216)	CLA (117)	CLA (118)

***** ESC

図 13-2 車両シリーズ選択画面

3. 画面の指示に従って車高を測定します。測定結果は自動的にタブレットにアップロードされ、対応する入力ボックスに表示されます。

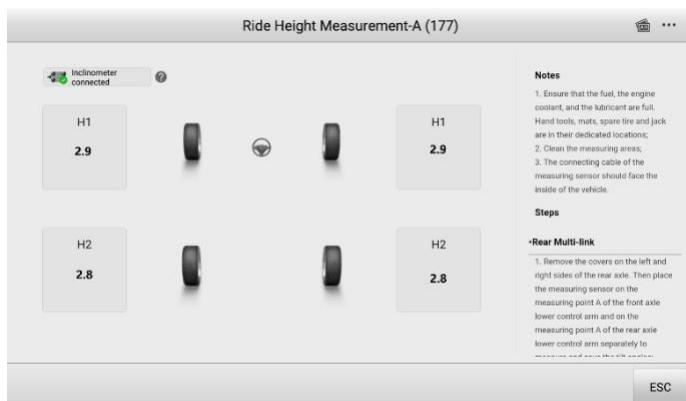


図 13-3 車高測定結果画面

 NOTE

画面の右上隅にある  ボタンをタップすると、ドロップダウンメニューオプション(キャリブレーション、更新、ヘルプ)が開きます。ヘルプオプションをタップすると、Autelハンドヘルド傾斜計の使用法に関するクイックリファレンスガイドが表示されます。

14 リモートデスク

シンプルで高速、かつ安全なリモートコントロールインターフェイスである TeamViewer クイック サポートプログラムを起動します。このアプリケーションを使用すると、Autel のサポートセンター、同僚、または友人が TeamViewerソフトウェアを介して自分の PC で MaxiSysタブレットを制御できるようにすることで、アドホックリモートサポートを受けることができます。

14.1 オペレーション

TeamViewer接続を電話の通話と考えると、TeamViewer IDはすべての TeamViewerクライアントに個別に連絡できる電話番号になります。TeamViewer を実行するコンピューターとモバイルデバイスは、グローバルに一意的IDによって識別されます。リモートデスクを初めて起動すると、このIDはハードウェアの特性に基づいて自動的に生成され、変更されません。リモートデスクを起動する前に、タブレットがインターネットに接続されていることを確認してください。そうすることで、タブレットはサードパーティからリモートサポートを受けることができます。

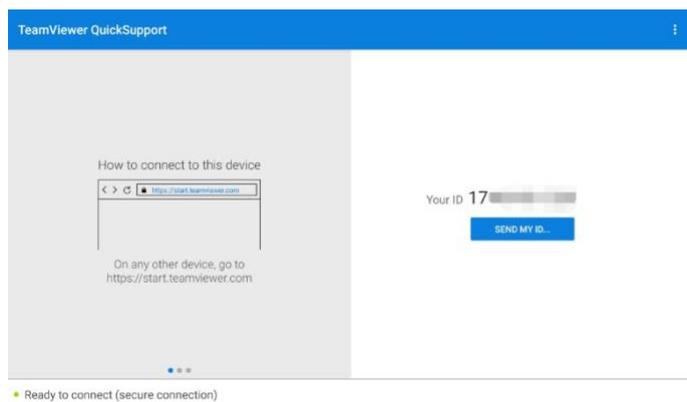


図 14-1 リモートデスク 画面

- リモートサポートを受けるには

1. タブレットの電源を入れます。
2. MaxiSysジョブメニューの**リモートデスク**をタップします。TeamViewer インターフェイスが表示され、デバイス ID が生成されて表示されます。

3. パートナーは、TeamViewerフルバージョンプログラムをオンライン (<http://www.teamviewer.com>) からダウンロードして、リモートコントロールソフトウェアを自分のコンピューターにインストールし、ソフトウェアを起動する必要があります。
4. パートナーに ID を伝え、パートナーからリモートコントロールリクエストが送信されるのを待ちます。
5. デバイスのリモートコントロールを許可するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
6. **[許可]** をタップして承認するか、**[拒否]** をタップして拒否します。

詳細については、関連する TeamViewer ドキュメントを参照してください。

15 クイックリンク

Autel の公式 Web サイトや自動車サービス業界の他の多くの有名なサイトに簡単にアクセスして、技術的なサポート、ナレッジベース、フォーラム、トレーニング、専門知識に関する相談を受けることができます。

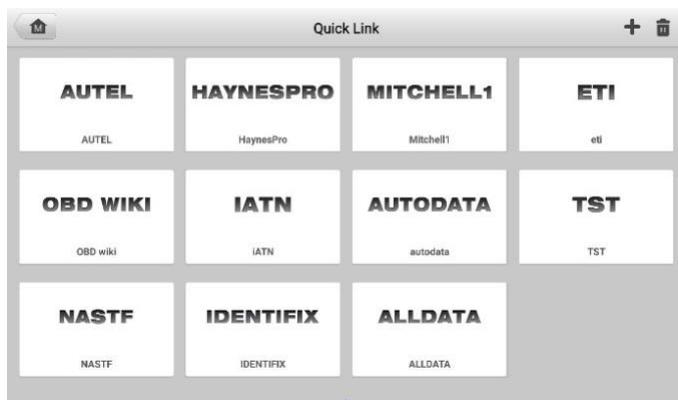


図 15-1 クイックリンク 画面

➤ クイックリンクを開くには

1. MaxiSysジョブメニューの**クイックリンク**をタップします。クイックリンクアプリケーション画面が表示されます。
2. メインセクションから Web サイトのサムネイルを選択します。Chrome ブラウザが起動し、選択した Web サイトが開きます。

➤ クイックリンクを管理するには

1. MaxiSysジョブメニューの**クイックリンク**をタップします。クイックリンクアプリケーション画面が表示されます。
2. 右上隅の**+** アイコンをタップして Web サイトを追加します。アイコンをタップして Web サイトを削除します。

16 User Feedback

この製品に関連する質問を送信できます。

➤ User Feedbackを送信するには

1. MaxiSysジョブメニューの**User Feedback**をタップします。デバイス情報は自動的に同期されます。

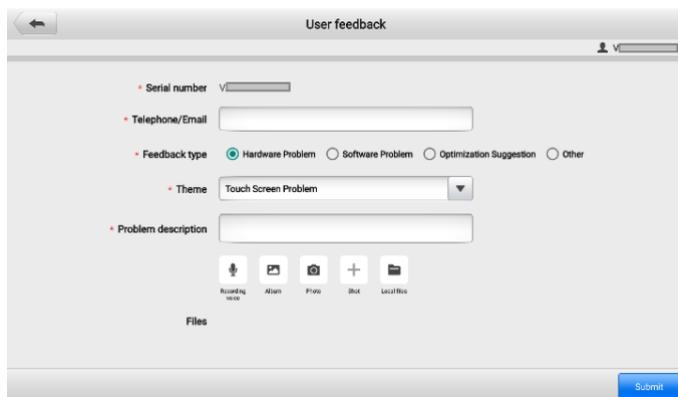


図 16-1 *User Feedback* 画面

2. 電話/メール、フィードバックの種類、テーマ、問題の説明を設定します。音声録音、写真、スクリーンショット、画像、PDFファイルを添付することもできます。問題をより効率的に解決するために、できるだけ多くの詳細を入力することをお勧めします。
3. **[送信]** をタップして、入力した情報を Autelのオンラインサービスセンターに送信します。送信されたフィードバックは、当社のサービス担当者が慎重に読み、処理します。

17 MaxiViewer

Autelのツールでサポートされている機能とバージョン情報を検索できます。検索には、ツールと車両を検索するか、機能を検索するかの2つの方法があります。

➤ 車両で検索するには

1. MaxiSysジョブメニューの**MaxiViewer**をタップします。Function Viewer アプリケーション画面が表示されます。
2. 左上隅のツール名をタップしてツール リストをドロップダウンします。検索するツールをタップします。
3. 検索する車両のブランド、モデル、年をタップします。

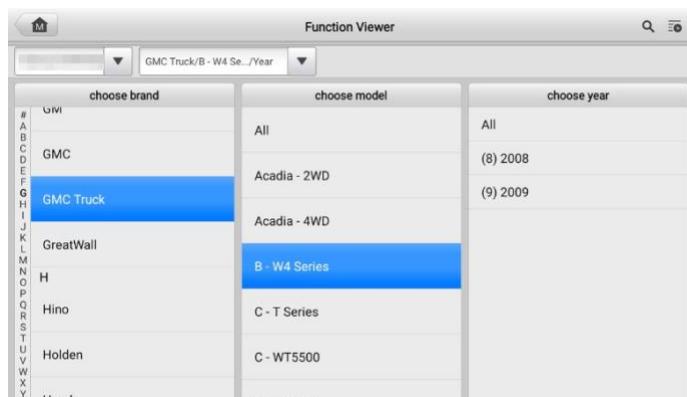


図 17-1 MaxiViewer 画面 1

4. 選択した車両の選択したツールでサポートされているすべての機能が複数の列として表示されます。

System	Type	Function	Sub function	Version
Electronic brake control module	Medium duty truck	Active test	/	Above GM_V3.00
Electronic brake control module	Medium duty truck	Live data	/	Above GM_V3.00
Electronic brake control module	Medium duty truck	Trouble codes	/	Above GM_V3.00
Electronic brake control module	Medium duty truck	Special function	ABS relay	Above GM_V3.00
Electronic brake control module	Medium duty truck	Special function	Exhaust brake cut	Above GM_V3.00
Engine control module	Medium duty truck	Active test	/	Above GM_V3.00
Engine control module	Medium duty truck	Live data	/	Above GM_V3.00

図 17-2 MaxiViewer 画面 2

➤ 機能で検索するには

1. MaxiSysジョブメニューの**MaxiViewer**をタップします。Function Viewer アプリケーション画面が表示されます。
2. 左上隅のツール名をタップしてツール リストをドロップダウンします。検索するツールをタップします。
3. 右上の検索ボックスに検索する機能を入力します。画面には、この機能をサポートするすべての車両と、車両の年、システム、機能、サブ機能、バージョンなどの情報が表示されます。

Brand	Model	Year	System	Sub system	Function	Sub function	Version
TATA	ACE(DOME STIC-CO...	/	EMS(BSIV CNG - A33)	/	ECU information	/	Above TAT A_V2.00
TATA	ACE(DOME STIC-CO...	/	EMS(BSIV CNG - A38)	/	ECU information	/	Above TAT A_V2.00
TATA	ACE(DOME STIC-DIES...	/	EMS(Engine management system)	/	ECU information	/	Above TAT A_V2.00
TATA	ACE(DOME STIC-DIES...	/	EMS(Engine management system)	/	ECU information	/	Above TAT A_V2.00
TATA	ACE(DOME STIC-DIES...	/	EMS(Engine management system)	/	ECU information	/	Above TAT A_V2.00
TATA	ACE(DOME STIC-DIES...	/	EMS(Engine management system)	/	ECU information	/	Above TAT A_V2.00
TATA	ACE(DOME STIC-DIES...	/	EMS(Engine management system)	/	ECU information	/	Above TAT A_V2.00

図 17-3 MaxiViewer 画面 3

18 デジタル検査

MaxiSysタブレットをMaxiVideoデジタル検査カメラに接続するだけで、タブレットをデジタルビデオスコープとして動作するように構成します。この機能により、通常は見えない、アクセスが困難な領域を検査でき、デジタル静止画像とビデオを記録することができるため、機械、施設、インフラストラクチャを安全かつ迅速に検査するための経済的なソリューションが提供されます。

🕒 NOTE

1. MaxiVideoデジタル検査カメラとその付属品は追加アクセサリであり、別途購入する必要があります。イメージャーヘッドの両方のサイズ(8.5mmと 5.5mm)はオプションで購入できます。
 2. この機能は、モデルMV105S、MV108S、MV105、およびMV108のMaxiVideoデジタル検査カメラと互換性があります。
 3. USBケーブルを使用してタブレットにMaxiVideoデジタル検査カメラを接続します。詳細な操作手順については、MaxiVideoデジタル検査カメラのクイックリファレンスガイドを参照してください。
-

19 スコープ

MaxiScopeモジュールと組み合わせて使用する場合、タブレットを自動車用オシロスコープとして動作するように構成します。この機能は、あらゆる最新車両における電気および電子回路テストの実行や信号アクティビティの監視に必要なすべての機能を提供し、車両の電気システムで実際に何が起きているかを示します。MaxiScope 機能の詳細については、www.autel.com > 製品 > 特殊ツール > その他の製品 > MaxiScope MP408 > ダウンロードを参照してください。

20 Autelユーザーセンター

ソフトウェアアップデートは、購入日から1年間無料でご利用いただけます。Autelユーザーセンターアプリケーションを使用すると、ツールを登録して最新リリースのソフトウェアをダウンロードできます。これにより、新しい車両モデルや拡張アプリケーションがデータベースに追加され、MaxiSysアプリケーションの機能が強化されます。

製品登録には2つの方法があります：

A. MaxiSysタブレットを使用して製品を登録する

➤ アカウントでログインしてツールを登録するには

1. MaxiSysジョブメニューから**Autelユーザーセンター**をタップします。次の画面が表示されます。

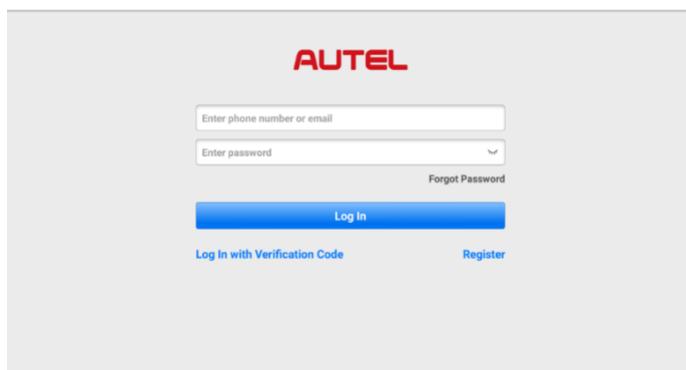


図 20-1 Autelユーザーセンター 画面

2. Autel IDをすでにお持ちの場合は、電話番号と確認コードでログインするか、**[他のアカウントでログイン]**をタップしてAutel IDとパスワードでログインできます。まだAutel IDをお持ちでない場合は、**[登録]**をタップしてAutel IDを作成します。
3. アカウントが正常に登録されると、Autelユーザーセンターのメインメニューが表示されます。
4. メインメニューで**[デバイス管理]**を選択します。

5. 登録されているデバイスのシリアル番号とパスワードが [デバイスのリンク] 画面に自動的に表示されます。
6. [リンク] ボタンをタップして、製品の登録を完了します。

B. Autelのウェブサイトでは製品を登録する

➤ 診断デバイスを登録するには

1. ウェブサイト **pro.autel.com** にアクセスします。
2. Autel アカウントをお持ちの場合は、アカウント IDとパスワードでサインインし、手順7に進みます。
3. Autelの新規メンバーの場合は、**[登録]** ボタンをクリックしてAutel IDを作成します。
4. 入力フィールドに必要な個人情報を入力します。
5. メールアドレスを入力し、**[リクエスト]**をクリックします。Autelから**検証コード**が記載されたメールが届きます。メールを開いて、コードを適切な入力ボックスに入力します。
6. アカウントのパスワードを設定し、確認のためにもう一度パスワードを入力します。Autelユーザーサービス契約と Autelプライバシーポリシーを読み、条件に同意するチェックボックスをオンにします。すべての情報を入力したら、**[登録]** をクリックします。製品登録画面が表示されます。
7. 登録を完了するには、製品のシリアル番号とパスワードが必要です。ツールでシリアル番号とパスワードを確認するには、**[設定]** > **[バージョン情報]** に移動します。
8. 製品登録画面でツールのシリアル番号とパスワードを入力します。CAPTCHAコードを入力して**[送信]** をクリックすると、登録手続きが完了します。

21 メンテナンスおよびサービス

タブレットと複合VCIユニットが最適なレベルで動作することを保証するには、このセクションで説明する製品メンテナンス手順に厳密に従うことをお勧めします。

21.1 メンテナンス説明書

以下に、デバイスのメンテナンス方法と注意事項を示します。

- タブレットのタッチスクリーンを清掃するには、柔らかい布とアルコール、または中性洗剤を使用してください。
- タブレットに研磨剤、洗剤、自動車用化学薬品を使用しないでください。
- デバイスを乾燥した状態に保ち、指定された動作温度内で保管してください。
- タブレットを使用する前に手を乾かしてください。タッチスクリーンが湿っていたり、濡れた手でタッチスクリーンをタップしたりすると、タブレットのタッチスクリーンが機能しない場合があります。
- デバイスを湿気の多い場所、ほこりの多い場所、汚れた場所に保管しないでください。
- 使用前と使用後に、外観、配線、コネクタに汚れや損傷がないか確認してください。
- タブレットまたはVCIユニットを分解しないでください。
- デバイスを落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- 認定された充電器とアクセサリのみを使用してください。非正規の充電器やアクセサリの使用により故障や損傷が発生した場合、限定製品保証は無効になります。
- 充電器が導電性の物体に接触しないようにしてください。
- 信号干渉を防ぐため、タブレットを電子レンジ、コードレス電話、一部の医療機器や科学機器のそばで使用しないでください。

21.2 トラブルシューティングチェックリスト

- A.** タブレットが正常に作動しない場合：
- タブレットがオンラインで登録されていることを確認します。
 - システムソフトウェアと診断アプリケーションソフトウェアが適切に更新されていることを確認します。
 - タブレットがインターネットに接続されていることを確認します。
 - すべてのケーブル、接続、およびインジケータをチェックして、信号が受信されているかどうかを確認します。
- B.** バッテリー寿命が通常より短い場合：
- 信号強度の弱い場所にいるときに発生することがあります。使用していない場合はデバイスの電源をオフにしてください。
- C.** タブレットの電源をオンにできない場合：
- タブレットが電源に接続されているか、バッテリーが充電されていることを確認してください。
- D.** タブレットを充電できない場合：
- 充電器が故障している可能性があります。最寄りの販売店にお問い合わせください。
 - 極端に暑い/寒い場所でデバイスを使用しようとしている可能性があります。涼しい場所または暖かい場所でデバイスを充電してください。
 - デバイスが充電器に正しく接続されていない可能性があります。コネクタを確認してください。

🔍 NOTE

問題が解決しない場合は、Autelのテクニカルサポート担当者または最寄りの販売代理店にお問い合わせください。

21.3 バッテリーの使用について

タブレットには内蔵のリチウムイオンポリマーバッテリーが搭載されており、電力が残っている場合はバッテリーを充電できます。

 **危険**

内蔵のリチウムイオンポリマー電池は工場でのみ交換可能です。電池パックを誤って交換したり改造したりすると爆発する可能性があります。

- 損傷したバッテリー充電器は使用しないでください。
- バッテリーを分解、開封、押しつぶす、曲げる、変形させる、穴を開ける、または細断しないでください。
- バッテリーを改造、再製造したり、異物を挿入したり、バッテリーを火災、爆発、またはその他の危険にさらしたりしないでください。
- 指定された充電器と USB ケーブルのみを使用してください。Autel 認定以外の充電器または USB ケーブルを使用すると、デバイスの誤動作や故障につながる可能性があります。
- 不適格なバッテリーまたは充電器を使用すると、火災、爆発、漏電、またはその他の危険が生じる可能性があります。
- タブレットを落とさないでください。タブレットを特に硬い表面に落とし、損傷が疑われる場合は、タブレットをサービスセンターに持ち込んで点検してください。
- バッテリーの使用量を減らすために、ワイヤレスルーターの近くにいるようにしてください。
- バッテリーの再充電に必要な時間は、バッテリーの残量によって異なります。
- バッテリーの寿命は時間の経過とともに必然的に短くなります。
- 過充電によりバッテリーの寿命が短くなる可能性があるため、タブレットが完全に充電されたら充電器を取り外してください。
- バッテリーは温暖な環境に保管してください。暑すぎたり寒すぎたりする車内に置かないでください。バッテリーの容量と寿命が短くなる場合があります。

21.4 サービス手順

技術サポート、修理サービス、交換部品またはオプション部品の申請に関する情報を提供します。

21.4.1 テクニカルサポート

製品の操作に関してご質問や問題がございましたら、お問い合わせください。

Autel 中国本社

電話： +86 (0755) 8614-7779 (月曜～金曜、午前9時～午後6時 北京時間)

メールアドレス: support@autel.com

住所： Floor 2, Caihong Keji Building, 36 Hi-tech North Six Road, Songpingshan Community, Xili Sub-district, Nanshan District, Shenzhen City, China

Web： www.autel.com

Autel 北米

電話： 1-855-288-3587 (月曜～金曜、午前9時～午後6時 アメリカ東部時間)

メールアドレス: ussupport@autel.com

住所： 36 Harbor Park Drive, Port Washington, New York, USA 11050

Web： www.autel.com/us

Autel ヨーロッパ

電話： +49(0)89 540299608 (月曜～金曜、午前9時～午後6時 ベルリン時間)

メールアドレス: support.eu@autel.com

住所： Landsberger Str. 408, 81241 München, Germany

Web： www.autel.eu

Autel APAC

日本:

電話： 045-548-6282 (月曜～金曜、午前9時～午後6時 日本時間)

メールアドレス: support.jp@autel.com

住所： 〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜3-7-7

新横浜アリーナ通りビル6階

Web： www.autel.com/j_p

オーストラリア：

メールアドレス: ausupport@autel.com

住所： Unit 5, 25 Veronica Street, Capalaba

Autel IMEA

電話： +971 585 002709 (UAE)

メールアドレス: imea-support@autel.com

住所： 906-17, Preatoni Tower (Cluster L), Jumeirah Lakes Tower, DMCC,
Dubai, UAE

ウェブ： www.autel.com

Autel Latin Americaメ

キシコ:

電話： +52 33 1001 7880 (メキシコ)

メールアドレス: latsupport@autel.com

住所： Avenida Americas 1905, 6B, Colonia Aldrete, Guadalajara, Jalisco, Mexico

ブラジル：

メールアドレス: brsupport@autel.com

住所： Avenida José de Souza Campos nº 900, sala 32 Nova Campinas Campinas
– SP, Brazil

ウェブ： www.autel.com/br

21.4.2 修理サービス

修理のためにデバイスを返送する必要がある場合は、www.autel.com から修理サービス フォームをダウンロードし、フォームに記入してください。次の情報を含める必要があります。

- 連絡先名
- 返送先住所
- 電話番号
- 製品名
- 詳細な不具合内容
- 保証修理の場合は購入証明

- 保証対象外の修理の場合は、希望する支払方法

🔗 NOTE

保証対象外の修理の場合、お支払いは Visa、Master Card、または承認されたクレジット条件で行うことができます。

デバイスは、Autel販売代理店または以下の住所に送ってください:

中国深圳市南山区西里街道松坪山コミュニティハイテク北六路36号彩虹科技ビル2階

21.4.3 その他のサービス

オプションのアクセサリは、Autelの認定販売代理店、および/またはお近くの販売店または代理店から購入できます。

注文書には次の情報を含める必要があります。：

- 連絡先情報
- 製品または部品名
- アイテムの説明
- 購入数量

22 コンプライアンス情報

FCCコンプライアンス

FCC ID: WQ8 -DV2221

この機器は、FCC 規則のパート15に従って、クラスBデジタルデバイスの制限に準拠していることがテストで確認されています。これらの制限は、住宅への設置において有害な干渉に対する適切な保護を提供するように設計されています。この機器は、無線周波数エネルギーを生成、使用し、放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しないと、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ただし、特定の設置で干渉が発生しないという保証はありません。この機器がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こしている場合（機器の電源をオン/オフすることで確認できます）、ユーザーは次の1つ以上の方法で干渉を修正することをお勧めします。

- 受信アンテナの向きを変えるか、位置を変えます。
- 機器と受信機の距離を広げます。
- 販売店または経験豊富な技術者に相談してください。

このデバイスは、FCC規則のパート15に準拠しています。操作には次の2つの条件が適用されます。:

- (1) このデバイスは有害な干渉を引き起こしてはなりません。
- (2) このデバイスは、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉をすべて受け入れる必要があります。

コンプライアンス責任者によって明示的に承認されていない変更または修正は、ユーザーの機器を操作する権限を無効にする可能性があります。

IC 警告

IC:10826A- DV2221

このデバイスは、カナダ産業省のライセンス免除RSS標準に準拠しています。動作には次の2つの条件が適用されます。

- (1) このデバイスは干渉を引き起こす可能性はありません。
- (2) このデバイスは、デバイスの望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含

む、あらゆる干渉を受け入れる必要があります。

Le présent appareil est conforme aux CNR d'Industrie Canada は、aux appareils radios delicenceに適用されます。L'exploitation est autorisée aux deux条件の適用:

(1) l'appareil nedoit pas produire de brouillageなど

(2) l'utilisateur de l'appareil は、ラジオ電気のスピーを使用して、機能を妥協しやすいブルイヤージュを受け入れます。

SAR

このデバイスの放射出力は、FCC 無線周波数曝露制限を下回っています。ただし、通常の操作中に人間と接触する可能性が最小限になるようにデバイスを使用する必要があります。

ワイヤレス デバイスの曝露基準では、比吸収率 (SAR) と呼ばれる測定単位が採用されています。FCC によって設定された SAR 制限は 1.6 W/Kg です。SAR のテストは、FCC が承認した標準操作位置を使用して、デバイスがテストされたすべての周波数帯域で最高認定電力レベルで送信している状態で実施されます。SAR は最高認定電力レベルで決定されますが、デバイスの動作中の実際の SAR レベルは、最大値を大幅に下回る場合があります。これは、デバイスがネットワークに到達するために必要な電力のみを使用するように複数の電力レベルで動作するように設計されているためです。FCC 無線周波数曝露制限を超える可能性を回避するには、アンテナへの人間の接近を最小限に抑える必要があります。

RoHS 準拠

このデバイスは、欧州 RoHS 指令 2011/65/EU に準拠していると宣言されています。

CE 準拠

この製品は以下の指令の必須要件に準拠していると宣言されており、それに応じて CE マークが付いています:

無線機器指令 2014/53/EU

23 保証

12ヶ月限定保証

Autel Intelligent Technology Corp., Ltd. (以下「当社」) は、この MaxiSys タブレットの最初の小売購入者に対して、通常の使用および通常の下況下でこの製品またはその一部に材料または製造上の欠陥があり、購入日から12か月以内に製品が故障することが判明した場合、当社の判断により、購入証明があれば、当該欠陥を修理または交換(新品または再生部品を使用)し、欠陥に直接関連する部品または労力の費用を請求しないことを保証します。

NOTE

保証期間が現地の法律や規制と矛盾する場合は、関連する現地の法律や規制に従ってください。

当社は、デバイスの使用、誤用、または取り付けによって生じる偶発的または結果的な損害については一切責任を負いません。州によっては、黙示の保証期間の制限を認めていないため、上記の制限が適用されない場合があります。

この保証は、次の場合には適用されません。：

- a) 異常な使用または条件、事故、誤った取り扱い、怠慢、無許可の改造、誤用、不適切な設置または修理、または不適切な保管にさらされた製品。
- b) 機械シリアル番号または電子シリアル番号が削除、変更、または汚損された製品。
- c) 過度の温度または極端な環境条件にさらされたことによる損傷。
- d) 当社が承認または許可していないアクセサリまたはその他の製品への接続または使用によって生じた損傷。
- e) フレームや非動作部品などの外観、美観、装飾または構造上の欠陥。
- f) 火災、汚れ、砂、電池の液漏れ、ヒューズの切れ、盗難、または電源の不適切な使用などの外的原因によって損傷した製品。

! 重要

修理の過程で製品の内容はすべて削除される可能性があります。保証サービスのために製品を発送する前に、製品の内容のバックアップコピーを作成してください。

ALITS